

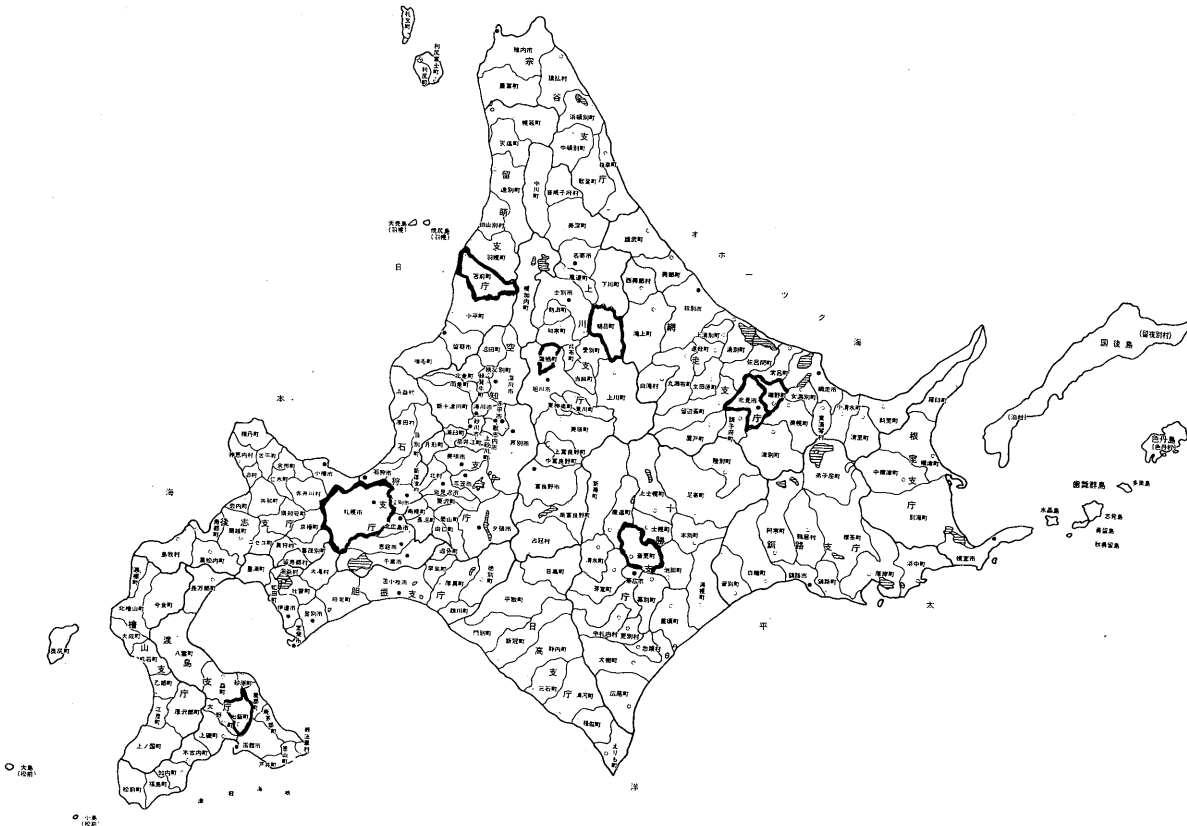
II. ヒアリング調査結果

(調査先の概要およびヒアリング記録)

Ⅱ. ヒアリング調査結果

ネットワーク活動名	調査先ホール名(組織名)／連絡先
1 シアターネットかんげき	音更町文化センター(音更町文化事業協会) 北海道河東郡音更町木野西通 15-8 Tel: 0155-31-5215, Fax: 0155-31-5229
2 富山県公立文化施設協議会 (富山県文化ホールネットワーク 公演事業)	富山県民会館(財団法人富山県文化振興財団) 富山市新総曲輪 4-18 Tel: 0764-32-3111, Fax: 0764-32-2024
3 類似ホール企画連絡会議	京都コンサートホール (財団法人京都市音楽芸術振興財団) 京都市左京区下鴨半木町 1-26 Tel: 075-711-2296, Fax: 075-711-2955
4 南河内文化会館連絡協議会	大阪狭山市文化会館(SAYAKA ホール) (財団法人大阪狭山市文化振興事業団) 大阪狭山市狭山 1-875-1 Tel: 0723-65-8700, Fax: 0723-65-6700
5 C-WAVE ネットワーク協議会	門川町総合文化会館(財団法人門川ふるさと文化財団) 宮崎県東臼杵郡門川町南町 1140-8 Tel: 0982-63-0002, Fax: 0982-63-5048

シアターネットかんげき



設立年	平成8年10月
地域	北海道
ジャンル	演劇
設立の経緯・目的	北海道地区は、全国公立文化施設協議会の区分けで4ブロックに分かれている。東京との距離的な問題があり、単独館で劇団を招聘することは特に予算的な面で難しく、この課題を解決するためにネットワークを組むことに至った。 従って、自主事業を行なっていて、ほぼ同じ環境で事業を始められる劇場に参加を呼びかけた。ジャンルを演劇に限定し、演劇による人づくりや街づくりを目指している。演劇を見ることによって何か感じるものがあること、そのような体験の積み重ねを重視している。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 演劇公演の定期的な共同開催 ● 演劇情報の調査および公演の企画、交渉 ● 観客づくりおよび演劇によるまちづくり(地域での演劇創造活動支援) ● 観客と鑑賞団体の支援
加盟機関数	7団体
加盟機関属性	公立文化施設の運営団体及び地方公共団体 芸術文化を支援する民間団体
活動経費	年会費 20,000円 / 1団体、事業費 負担金はホールの規模ごとに異なる
公的助成	(財)北海道文化財団、(財)地域創造、文化庁、北海道など
事務局	財団法人北海道演劇財団

シアターネットかんげき

ヒアリング記録

1997/10/09

音更町文化センター

音更町教育委員会教育部中央公民館 | 館長 五十嵐隆男氏, 主査 佐藤直樹氏

音更町文化センターの概要

- 施設概要 | 大ホール(1,022 席)、ふれあいホール(346 席)、展示催し物広場、会議室、資料展示室、実習室、作法室、音楽室、サークル活動室、図書室、ほか
- 昭和 61 年開館
- 音更町文化センターでは、音更町文化事業協会が自主事業を実施している。町からは 500 万円の補助金を受けているが、組織としては民間組織(任意団体)。この 500 万円には広報宣伝費も含まれているため、事業に使えるのは実質 300 万円程度。
- その他の収入として、賛助会員制度を設けている。会員は地元の企業や個人 226 名(社)。この協賛収入は目標 300 万円を目指している。
- 事業協会は独立した民間組織で、事務局長も民間人、職員の 6 名は文化センターの職員で、3 名は施設担当。他の 3 名が側面的に事業協회를積極的にサポートしている。音更町文化事業協会は、音楽部門委員会、舞台部門委員会、美術展示部門委員会の委員、合計約 80 名で構成されている。
- この事業協会のメリットは、予算が比較的自由に使えること。逆にデメリットは事業内容等の決定の際に 3 回程度の会議が必要。委員の合議制は難しい。
- また、民間組織の危険性として赤字の補填ができないことがある。この問題に対応するため音更町文化事業協会では、500 万円の寄付金を積み立てており緊急の場合に取り崩せるようにしている。
- 民間運営は、音更町文化センター設立当初からの町の方針。
- NPO法案が通れば法人化も考えている。事務局員も必要である。

1. ネットワーク活動の概要

(1) ネットワーク活動の経緯・目的

- 北海道地区は、全国公立文化施設協議会の区分けでは、4ブロックに分かれている。東京との距離的な問題があり、単独館で劇団を招聘することは、特に予算的な面で難しく、これを何とか共同で行なうことで対応できないかと、公文協の道東地区に呼びかけたが、特に反応がなかった。公文協は全員参加を基本的な考え方としており、80～90%の参加が得られて初めて事業ができるが、現実的にはそれだけ集めるのは難しい。
- したがって、シアターネットかんげきには、実際に自主事業活動を行なっていて、ほぼ同じ環境で事業を始められるところが集まっている。
- (財)北海道演劇財団がメンバーに入っている。これは民間のノウハウを習得するため、

- また公立ホールの担当者異動に対応できるよう活動のノウハウや経緯をストックするため。公立ホールだけでネットワークを組んだ場合の不足部分を補完してくれている。
- 財団法人北海道演劇財団は、札幌演劇鑑賞協会(民間の鑑賞組織)を前身に設立された民間の財団で、協会時代を含めると20年以上の活動歴がある。
 - シアターネットかんげきの発足までの経緯については、下記参照。

「シアターネットかんげき」設立までの経緯

文化振興のための地域ネットワーク会議(平成7年1月27日)

- 北海道文化財団と札幌演劇財団(仮称)設立準備の会共催。その後、北海道文化財団は単独開催の方針を出す。
- 呼びかけ:平成5年~7年、演劇財団準備会地域公演に関係した団体等、約80団体
- 参加30名

「ネットワークえんかん」企画案の説明会(平成7年12月15日)

- 目的:演劇公演の安定した成立/観客数の安定/住民が自主的に演劇公演に参加(消費からまちづくり)
- 提案:演劇公演の共同開催——月会費1,000円で年3回の観劇会を会員制で。
- 参加:15名
- 話し合いの結果、一部変更して提案。会員制は前提としないが、共同で企画を進めながら、ゆるやかな会員制の確立を目指す。

「ネットワークえんかん(仮称)検討会」(平成8年3月22日)

- 事例報告:石川県中島町 能登演劇堂振興協会/和歌山県粉河町
- 運営、企画、規約、組織等を具体的に話し合う。
- 参加:16名

「ネットワークえんかん(仮称)」準備会(平成8年4月20日)

- 名称検討、規約案作成、活動内容、方針案作成
- 参加:10名

「ネットワークえんかん(仮称)」世話人会(平成8年7月12日)

- 規約、活動内容を入会予定団体で検討
- 参加:7名

「ネットワークえんかん(仮称)」設立総会(平成8年10月8日)

- 名称決定:「シアターネットかんげき」に決定
- 規約案作成
- 共同企画作品「山彦ものがたり」「星屑の町」の2作品に決定
- 「山彦ものがたり」で地域創造連携プログラムへ助成申請
- 参加:10名

(平成8年12月6日)

- 規約、運営方針の変更を話し合う
- 入会条件から演劇公演の共同開催を削除

「シアターネットかんげき」活動内容検討会(平成9年2月7日)

- ネットワークの規模的には12館程度が良いと考えている。
- 最初に声をかけた80館には、北海道内の全ホールではなく、共同公演の可能性のあり

そんなホールを選んでいる。

- 当初、参加を希望するホールは 20 館程度あったが、共同で年 3 回公演をすることをネットワーク参加の前提条件としたら、可能なホールが 4 館程度になってしまったため、その条件は正式設立前に削除された。
- ネットワーク活動のジャンルを演劇に絞った理由は、結果としてたまたま演劇好きが集まったということの他に、演劇は限りなく地域の人に働きかけることができるという考えにも基づいている。当面は演劇公演の共同開催を中心にとっているが、将来的にはジャンルを拡大する可能性も無いわけではない。
- 演劇は、ネットワークを組むことで最も効果のあがるジャンルではないかと思う。コスト面の負担が大きく、一館だけでは事業は成立しないが、ネットワークを組んで公演が可能になることで、演劇をみる楽しみを地域の人々に体験してもらうことを目指している。
- 演劇は役者やスタッフの数が多いため、地域への浸透度・密着度にかかわらず、地域での受入体制、地域がそれを支えることが求められている。

(2) 具体的な活動内容

- 鑑賞事業主体。「山彦ものがたり」「ブラックコメディ」「白石かよ子」の 3 本から各館 2 本程度を選んで実施している。
- 定期的な会議を 3 ヶ月に 1 回程度の頻度で開催している。事業の話以外に研修を行なうようにし、また、何らかの目的を持つようにしている。今月は朝日町サンライズホールで開催する。会議の場所は開催回ごとに参加ホール内で移動する。これには、「シアターネットかんげき」に参加していない近隣ホールの担当者も参加できるようにするという目的がある。
- その他、参加ホール同士の情報交換は日常的に行なわれている。
- 来年度の事業内容 4～5 本についても、各ホールから公演候補を推挙してもらい、次の会議で検討する。
- 事業の候補については、参加各館が年に何回か東京に行って選定する。複数本鑑賞した中で選んでくる。東京での調査のための旅費は、特に市町村では年に数回も拠出することは難しく、担当者が自費で行っている場合が多い。組織としての活動財源が必要であろう。その他は、演劇財団の人に頼っている部分も大きい。
- 「シアターネットかんげき」として企画した公演でも、参加ホールすべてで公演するわけではない。企画によって参加するところとしないところがある。ただし、札幌を入れないとなかなか公演が成立しないことも事実。札幌に何日か滞在し、3～4 公演を行い、その後で道内の参加ホールを巡回する形が理想的だと思う。

(3) 経費負担および公的支援の活用状況

- 費用負担については、例えば、300 席のホールでは負担金 180 万円、1000 席のホールでは 250 万円というように、ホールの規模で変えている。当然、公演料金もホールによって異なり、チケット単価も劇場ごとで若干違う。但し、1000 席の劇場では観客が単純に 1000 人になるわけではなく、300 人程度が平均である。東京では観客層が厚いので 100 席や 200 席の劇場でも連続公演ができるが、北海道の市町村ではそうは行かない。
- 公的支援については、(財)北海道文化財団、(財)地域創造、文化庁、および北海道

支庁の裁量予算範囲(100万円)の支援は受けている。札幌交響楽団の定期公演については、北海道新聞からの助成も受けたことがある。

(4) 民間ホールとの連携

- 民間ホールとの連携については、北海道に民間ホール自体がそれほど存在しないことから、特に関係はない。ただ、民間レベルのネットワークは構築しようとしている。
- 具体的には、現在、十勝のネットワークをつくる準備をしておき、民間の人との交流をしていこうと考えている。これからは、行政の発想だけでは事業は成功しないと思う。
- 東京の民間ホール・劇場との連携も特にないが、ネットワークの事務局が北海道演劇財団(札幌)にあることから、情報だけは入ってくるようになってきている。

2. ネットワーク活動の効果、問題点・課題等

(1) ネットワーク活動による効果

- ネットワークを組むことで、単独の劇場・ホールではできなかったことが可能になる、という効果は確かにある。また、小さなホールにも大きなホールと同じような情報が入ることも重要な効果。
- 経費的にも、東京ー北海道間の交通費分は参加館で分担できるので、節減できる。更に、各館の交渉力が付いてくれば、公演料につきも多少のメリットは期待できよう。
- 人と人との交流も盛んになる。FAXやインターネットはあくまでも手段。ネットワークの仲間は頻繁に会っているので、気軽に情報交換をすることができる。
- ネットワーク組織設立の目的はとりあえず達成されていると思う。

(2) ネットワーク活動の問題点・課題

- ネットワーク活動で大変なのは、会議を開催するために集まること。北海道はその広さに対して道内の交通機関が発達していないので、移動が大変。
- ネットワーク組織発足の段階では、旗振り役、中心となってアイデアを推進する人物が必要。旗振り役は、かなりの犠牲を覚悟しないと実現しないだろう。
- 実際の共同公演では、ホール間の事業調整が難しい。北海道、特に十勝地区では夏の観光シーズンにあわせ7月から9月のコンサートが多い。
- 帯広市の人口は17万人。それに対し、音更町は38,850人、幕別町は22,000~23,000人。いずれも帯広市のベッドタウン的位置づけであるため、音更町文化センターの観客層は7割が帯広市民だが、帯広で開催される公演との住みわけはできている。
- 東京と比較して、北海道には必要な人材がいない。また、東京との距離的な問題があって東京の人材との交流も難しい。
- ネットワーク組織を構成する時に、公立ホールのみが参加している場合には、職員の異動の際にノウハウが蓄積されない。その意味で、「シアターネットかんげき」には民間組織を入れた。また、音更町文化センターとしては、企画職員が三人いたら三人ともネットワーク事業にも何らかの形で関与することで、築かれた関係の継続に努めている。
- ネットワーク組織の問題点としては、組織運営のための予算がないことが問題。運営のための固定財源が必要である。現状では、各館の担当者が自費で動いている部分が多いに大きい。各劇場におけるネットワーク組織、ネットワーク活動の認知度をあげる必

要性を感じている。

(3) 将来的な展望について

- ネットワーク組織による活動が進むことで、ネットワーク同士のネットワークができてくるのではないかと。現在、十勝地域のネットワークや上川(旭川・富良野地域)のネットワーク組織をつくる動きがあるが、それらが各々結びつくことで、地域全体の芸術活動が振興されることが望ましい。
- 十勝のネットワークでは、さまざまな人材育成を考えている。音更町も、特に舞台技術者の育成に力を入れたい。現状では、技術スタッフは殆どが外部委託だが、必要な予算獲得が難しい場合には、通常のオペレーションに必要なスタッフ数を下回る人員で対応せざるを得なくなり、結局相応の結果となってしまう。
- 芸術の発達のためには経済の発達が必要。芸術家も北海道に住むようにならなければいけない。そのために、ネットワークの果たせる役割は大きい。音更町の劇場だけでなく、十勝全体、あるいは北海道全体の芸術活動の振興に繋がりたい。
- 「シアターネットかんげき」の今後の活動としては、鑑賞事業に限定しない活動を行ないたい。具体的には現在準備中の道立劇場の事業と連携したソフト事業などができればと思う。必要な人材に滞在してもらい、新しいものを創作することも考えたいが、音更だけでなく札幌や他の地域の人にも参加してもらいたい。
- また、シアターネットかんげきへの参加地域として、北海道だけでなく盛岡等東北のホールとの連携を考えても面白いかもしれないと考えている。

以上

富山県公立文化施設協議会(富山県文化ホールネットワーク公演事業)



設立年	富山県公立文化施設協議会:昭和41年 富山県文化ホールネットワーク公演事業:平成8年
地域	富山県
ジャンル	音楽・舞踊・演劇、伝統芸能等、総合 県民の文化意識高揚、地域文化の再発見・創造に資するもの
設立の経緯・目的	富山県内のほとんどの市町村が富山市内より1時間圏内に立地する地理的特徴や、近年の公立ホールの建設増加に伴い、課題となっている県下ホールの利用率低下への対応策として、富山県公立文化施設協議会加盟館同志のネットワーク化による公演の共同企画・制作等3つのホール活性化事業を実施。当事業を通じ、県民の芸術鑑賞機会の充実や、文化ホール相互の情報交換の促進、企画・運営能力の向上など文化ホールの活性化を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 公演の共同開催(富山県文化ホールネットワーク公演事業) <ul style="list-style-type: none"> H8年度・オーケストラ・アンサンブル金沢によるネットワーク公演(4館) <ul style="list-style-type: none"> 合唱によるネットワーク公演「コーラスメッセージ in TOYAMA」(3館) 桐朋アカデミーオーケストラによるネットワーク公演(4館) インターネットを活用した情報提供 ホールサポーター養成共同研修会開催 等
加盟機関数	32団体
加盟機関属性	富山県公立文化施設協議会加盟ホール
年会費	年額 15,000円/1団体 インターネットホームページ維持費 20,000円/1団体
事業費	4,400万円 H8年度富山県文化ホールネットワーク公演事業:3事業・14公演
公的助成	1,386万円 H8年度富山県文化ホールネットワーク公演事業:富山県→県公文協→各ホール
事務局	財団法人富山県文化振興財団

富山県公立文化施設協議会

ヒアリング記録

1997/10/15

富山県民会館

財団法人富山県文化振興財団 | 事務局次長・県民会館副館長 上野和博氏, 企画管理課副主査 土肥誠一氏

富山県民会館事業課長 竹中正男氏, 富山県民会館担当 水戸茂樹氏

財団法人富山県文化振興財団の概要

- 当財団は昭和 55 年 8 月に設立され、県立の 5 つのホール(富山県民会館、富山県教育文化会館、富山県高岡文化ホール、富山県民小劇場、新川文化ホール)等の県立文化施設を一元的に運営管理している。事務局は富山県民会館内におかれている。
- このうち、富山県民会館では昭和 57～58 年頃より自主事業を開始し、以降新聞社等民間企業との共催事業として年間 2 本程度の割合で実施してきた。現在はこれにネットワーク公演が年間 1 本加わっている。なお、併設美術館での年間 4 回の企画展、文化学園(カルチャー教室)も開催している。

富山県公立文化施設協議会(以下、県公文協)の事業概要

- 県公文協は、加盟施設 32 館、事務局を富山県文化振興財団内に置き、下部組織として自主文化事業研究部会、技術研究部会、業務管理研究部会を設置している。
 - 後述の文化ホールネットワーク公演事業は自主文化事業研究部会が担当、裏方ボランティアの募集・研修は技術・業務管理研究部会双方で行っている。
-

1. ネットワーク活動の概要**(1) 文化ホールネットワーク活動の経緯・目的**

- 富山県は、ほとんどの市町村が富山市内から 1 時間圏内に立地する地理的特徴に加え、近年のホール建設の増加により、対人口比当たりの公立ホール数が滋賀県に次いで全国で 2 番目に多いという特徴を有している。そのため、観客層が隣接ホールで重複するなど各ホールの利用率が比較的低い点が以前から課題として指摘されていた。
- このため、ホールの活性化策は、これまでも県公文協の自主文化事業研究部会においてホール間の交流事業等何度か提案してきたが、各ホール間の予算規模、施設規模等の違いにより実現しなかった。
- そこで、富山県において、公立文化ホールの活動実態を把握するため平成 6 年度に「公立文化ホール等活用検討調査」を行い、その報告書の中で公立文化ホールの活性化策 10 項目についての提案がなされた。
- この提案を受け県公文協では、ホール活性化策に向けての具体的な検討を行うため、平成 7 年度に検討委員会を設置し、①ネットワーク公演の実施、②文化ボランティアの育成、③インターネットを利用した県民への情報発信の 3 本を柱とするホール活性化策についてとりまとめた。この検討結果に基づき県公文協独自の事業として平成 8 年より文化ホールネットワーク公演事業(以下、ネットワーク公演)、平成 8 年 10 月よりインターネットによる情報発信、平成 9 年よりボランティアの募集をそれぞれ開始している。

- 特にネットワーク公演は、県民の芸術鑑賞機会の充実や文化ホール相互の情報交換の促進、企画・運営能力の向上など文化ホールの活性化の中心事業となっている。なお、このネットワーク公演には富山県からの助成を得ている。

(2) ネットワーク公演への参加ホール

- ネットワーク公演は県内 32 の県公文協加盟ホールを対象としており、事業への参加は各ホールの自発的な参加を原則としている。参加ホールの中には、貸館のみで自主事業を行っていないホールも対象となるが、公文協の事業であるため民間のホールは含まれていない。

(3) 具体的な活動内容

- ネットワーク公演は、県からの助成を受けていることもあり、地方文化の振興を目的としていることから、東京等で行われる公演の共同招聘ではなく、地元の演奏家・劇団等を活用した自主企画となるよう努めている。また、近隣館同志での同一公演の単純な巡回では、観客層がバッティングし集客力が低下する懸念があるため、公演内容を①統一のテーマを決め各ホールが公演、ワークショップ、シンポジウム等開催形態の分担を行う、②各ホールが統一テーマに沿ってはいるが異なる独自の公演を企画する等の工夫を取り入れている。
- 昨年度はオーケストラ・アンサンブル金沢によるネットワーク公演(4 館)、合唱によるネットワーク公演「コーラスメッセージ in TOYAMA」(3 館)、桐朋アカデミーオーケストラによるネットワーク公演(4 館)の併せて 3 事業が 11 館で開催された。
- 今年度は昨年度よりも多い 8 事業 24 館での開催を予定している。そのうち上記①のケースとしては、2 館で共同開催される「舞踏逍遥」があげられる。この事業では、出演者は同一であるが、富山県民会館が公演「彼方」と舞踏ワークショップ、砺波市文化会館が公演「未知の花」とシンポジウムを開催と公演および事業内容の分担を図っている。②のケースとしては、4 館でネットワークを組む「日本の心・伝統芸能祭」(ネットワーク公演名)があげられ、富山県教育文化会館「弦楽器の世界」、新湊中央文化会館「打楽器の世界」、富山県高岡文化ホール「獅子の芸能」、黒部市国際文化センター「女形ができるまで～素敵に歌舞伎」と、統一テーマに沿ってはいるが各館異なる公演を行う予定である。
- それぞれのケースをみても、各ホールの規模に適した公演形態・公演内容を選択できるようにすることで参加ホールの施設規模の違いを逆に活かしている。
- 県公文協加盟ホール内から公演希望ホールを募って実施するため、参加しないホールもでてくる。なお、県からの助成を得ているため、一つのホールでの重複開催は基本的に認めておらず年間 1 館 1 公演としている。
- 公演に際しては、共同公演の良さを活かした、ポスター、チラシ、チケットの共同発行や共通券の発売も行っている。ただし、各公演時期が異なることから各事業毎の情報提供が基本で、ネットワーク公演全体の宣伝はインターネット上での簡易な情報提供しか行っていない。

(4) 参加ホールの役割分担、運営方法

- ネットワーク公演の共同企画の立案から実施まで、県公文協の自主文化事業研究部会において実施している。企画決定のプロセスは、例年 7 月位迄に全加盟ホールより

来年度のネットワーク公演として行いたい具体的な公演内容の希望を吸い上げ、集計結果を数回調整の上第一次案を作成し、10～11 月にかけて実施公演名および実施ホールの割り振りまで含めた具体的な事業内容の調整を行いながら決定していく。

- ネットワーク公演への参加ホールの中には自主企画のノウハウを持たないホールもあることから、各事業毎に事業全体の幹事役として「とりまとめ館」を決めている。①のケースのように、出演者が同一の場合には、「とりまとめ館」が中心となり出演者との交渉を行うが、②のケースでは各ホールにより出演者が異なるため各館毎に出演者との交渉を行うこととなる。この「とりまとめ館」にはスタッフの充実しているホールがなることが多いが、業務負担が多くなりがちのため、理想的には実行委員会形式が望ましいと考えている。

(5) 民間ホールとの連携

- 富山県には大規模な民間ホールはなく 300 席程度の小規模なものが数館ある程度であることや、これらのホールは貸館中心のため、ネットワーク公演への民間ホールの参加はなされていない。また、民間プロモーターの関与はほとんどないといってよい。

(6) 経費負担と公的支援の活用状況

- ネットワーク公演の経費のうち、事務費等の共通経費は各館の折半、ポスター作成費などは作成枚数割りとしている場合もある。各ホールでの公演者が同一でない(3)の②のケースの場合には、各ホール独自に公演料の交渉・支払いを行うこととなる。
- ネットワーク公演には富山県より助成を受けており、昨年度は合計 1,386 万円、今年度 2,900 万円の助成が予定されている。この助成金は、県公文協へ一括交付され、県公文協よりネットワーク事業開催ホールへ分配する仕組みをとっている。これは他県とは異なる富山県独自の方法であり、助成窓口を県公文協に一元化できる等のメリットがあると考えている。
- 補助対象となる事業の条件は、県公文協が自主企画し、加盟文化ホールが共同で実施する公演事業であり、公演分野が音楽、舞踊・演劇、伝統芸能等、総合もしくは文化シンポジウムとなっている。1 館当たりの補助限度額は、音楽、舞踊・演劇、伝統芸能等で 200 万円、総合的な公演 300 万円、文化シンポジウム 50 万円となっている。
- なお、公演内容については、優れた芸術家と県内芸術団体等との共演や、地域に根づいた文化活動を組み込むこと、県民や青少年とのワークショップの取り入れ、文化ボランティアの積極的な参加など、住民が何らかの形で参加するよう工夫を図ることとしている。

(7) 公演以外のネットワーク活動の状況

- 文化ボランティアの育成事業は、各ホールの人材不足の解消を目的とするよりも、これまでの聴衆としての市民の参加形態である友の会から一歩前進させ、市民参加型のホールづくりを目指すものである。なお、これらのボランティアはサッカーの特定チームを育てるファンの名称をイメージし「ホールサポーター」と称している。
- 平成 9 年度にホールサポーターを募集したホールは県立の 5 ホールを含む県公文協加盟の 19 ホールである。
- ホールサポーターとして募集する業務は、公演時の入場整理、もぎりや舞台設営、照明・音響操作のほか文化事業の企画・運営等の業務である。各ホールで実際の業務を

行う前に県公文協にて基礎知識習得のための講習会を実施し、各ホールの負担を軽減している。なお、いきなり文化事業の企画・運営ノウハウまでの習得は困難なため、3～4年かけてホールサポーターを育成していきたいと考えている。

- インターネットによる情報発信では「県公文協」のホームページを作成し、各ホールの施設概要や公演予定の他、友の会、ホールサポーター募集の告知、ネットワーク公演の紹介等を掲載している。なお、公演予定には、利用者の利便性を高めるため、ジャンル別での検索も可能にしている。個別ホールのホームページは全国で40件程度あるようだが、県公文協ベースでのホームページは他に例がないのではないかと。但し、各ホールの運営団体が異なることもあり、チケット販売までには至っていない。
- このホームページ運営管理費として年間各ホールより2万円を徴収している。参加ホール数が多いため各ホールの負担金を少額に抑えることができるメリットがある。
- ホームページへのこれまでのアクセス状況を見ると、10件/日とまだまだ利用頻度は高くないが、各館負担金年間2万円で広く県民に各ホールの情報提供が可能な点でメリットがあるといえるのではないかと。

2. ネットワーク活動の効果、問題点・課題等

(1) ネットワーク活動による効果

- ネットワーク公演では、地元の芸術団体を活用し発表の場を提供していること、住民を対象としたワークショップを開催していることなどから、地域文化の振興に寄与しているものと考えている。
- 単一ホールで公演を実施した場合とネットワークを組んで公演した場合を比較し具体的にどの程度の経費削減効果があるかは確かめてはいないが、共同で事業を行うことで広告宣伝費や事務費、会議費等を削減できている点もメリットとしては大きい。
- これまでは自主事業を行っていなかった中小のホールについても、共同で開催するホール(特にとりまとめ館)との情報交換により事業企画に関するノウハウが蓄積し、各ホールのレベルアップが図られている。
- また以前は、隣接ホールとの交流も少なく公演のバッティング等も起こっていたが、ネットワーク事業を通じた隣接ホール間の人的交流が生まれ、単一ホールでの事業の際の相談相手拡大にも繋がっている。

(2) ネットワーク活動の問題点・課題

- ネットワーク公演の内容決定に際しては、各施設毎に立地条件、設立趣旨、予算規模、ファン層等のバックグラウンドが異なるため、公演内容と各ホールの要望とをマッチングさせることが難しいケースもある。また、各ホールとも同一事業でネットワークを組む公演では、各ホールのオリジナリティが出せず存在意義が問われる点を危惧しているところもある。
- そのため、この公演内容の調整段階では、各館の独自事業との演目のバランス、日程等を調整する必要があり、時間と手間が非常にかかる。特に隣接ホール同志での共同公演の場合、日程調整や内容が希望通り行かないことがより強調されるケースもある。
- 来年度の企画決定のタイミングでも、県(10月)と市町村(11月)の予算案策定時期の違

いによる調整の難航や、単年度予算のため前年度には予算確保が不透明な中で企画立案作業を進めなければならない不安もある。また、予算成立(2月)後の3~4月に入らなければ本格的な準備業務が始められないため、高稼動ホールの空きが少なくなり、各ホールの公演日程の調整が難しくなる、あるいは劇団との交渉等を上期に行わざるをえないため実際の公演が下期以降に集中するなどの制約が課せられる。

- 各ホール毎のノウハウの有無、スタッフ数の大小によりネットワーク公演への参画意欲の温度差が生じ、「とりまとめ館」がスタッフ数、ノウハウの比較的豊富な県立ホールになる場合が多い。特に貸館事業のみを行っているホールでは、自主企画のノウハウが不足していることや、自主事業の公演内容が貸館事業と比較し地味であることなどの理由で協力がなかなか得られないこともある。そのため、このネットワーク公演が軌道に乗り、参加全ホールのレベルアップが図られるためには5年位はかかるかとみている。
- 市町村ホールでは定期的なスタッフの異動によりノウハウの蓄積が難しいという悩みを抱えているが、当財団の場合には、管理する5つのホール内での人事異動が可能のため、異動先でこれまで蓄積したノウハウが活用できる体制となっており、ノウハウ継承の面では苦労していない。

(3) ネットワーク公演の将来的な展望

- ネットワーク公演への参加意欲がまだまだ十分でないこともあり、県公文協から個別ホールに働きかけて参加を促す例もあることから、今後は各ホールのより自発的なネットワーク公演への参加が望まれる。
- 現状のままではこれ以上各ホールの集客力向上は難しく、今後は隣接県である石川県・新潟県にまでネットワーク拡大の働きかけを検討していきたい。
- 県公文協としては、今後いかに各ホールが地域住民に一層親しまれるかに知恵を絞る必要がある。

以上

■富山県文化ホールネットワーク公演事業内容■

平成8年度(3事業:14公演)

公演名	開催日	開催文化施設	入場者
オーケストラ・アンサンブル金沢によるネットワーク公演			
協奏曲の夕べ	7/28	北アルプス文化センター	550名
文化ボランティア・友の会発会記念 チェロと合唱と吹奏楽の夕べ	7/30	北アルプス文化センター	405名
おおやまふれあいコンサート 合唱団「おおやま」メサイアを歌う	8/25	大山町民文化会館	380名
会館10周年記念ニューイヤーキリンコンサート 安念千重子新春に歌う	1/11	富山県高岡文化ホール	470名
世界のバリトンシリーズ クラウド・オッカーバリトンリサイタル	1/22	小杉町文化ホール	250名
オーケストラ・アンサンブル金沢コンサート	2/12	小杉町文化ホール	445名
合唱によるネットワーク公演「コーラスメッセージ in TOYAMA」			
東京混成合唱団	1/18	高岡市民会館	795名
田中信昭氏による合唱指導ワークショップ	1/19	高岡市民会館	139名
女性合唱団るふらん演奏会	2/10	富山県民会館	559名
栗山文昭氏による合唱指導ワークショップ	2/9	富山県民小劇場	179名
桐朋アカデミーオーケストラによるネットワーク公演			
桐朋アカデミーオーケストラ演奏会	3/25	立山町民会館	275名
	3/27	入善町民会館	241名
	3/29	クロスランドおやべ	339名
	3/30	庄川町生涯学習センター	241名

平成9年度(8事業:24館)

公演名	開催日	開催文化施設
日本の心・伝統芸能祭		
ひく・はじく・つまびく～弦楽器の世界～(仮称)	12/12	富山県教育文化会館
たたく・うつ・ならす～打楽器の世界～(仮称)	12/13	新湊中央文化会館
獅子の芸能(仮称)	3/8	富山県高岡文化ホール
女形ができるまで～素敵に歌舞伎～	3/9	黒部市国際文化センター
舞踏公演「善知鳥うとう」—光・音・華・舞踏—		
舞踏公演「善知鳥うとう」	2/26～2/28	富山県民会館
舞踏ワークショップ(和栗由紀夫氏)		
舞踏仕込みワークショップ		
舞踏公演「善知鳥うとう」(オムニバス形式)	1/30～2/1	砺波市文化会館
桐朋オーケストラアカデミー		
打楽器アンサンブル	10/27	富山県利賀芸術公園
打楽器アンサンブル	11/15	宇奈月国際会館
室内アンサンブル	未定	滑川市民会館
室内アンサンブル	未定	クロスランドおやべ
合唱団「おおやま」と室内アンサンブルの共演メサイアを歌う	7/28	大山町民文化会館

劇団ピープルシアターを迎えて「演劇セッション in TOYAMA」		
ワークショップ(実技指導)	10月～1月	富山県東部(4回)・西部(4回)
ワークショップ(演劇講座)	1/16	富山県民小劇場
演劇公演	1/14	富山県民小劇場
	1/15	新川文化ホール
	1/17	高岡市民会館
	1/18	井波町総合文化センター
志の輔とゆかいな仲間たち		
落語(立川志の輔：富山県出身)等公演	未定	入善町民会館
	10/12	北アルプス文化センター
吉本お笑い演芸		
吉本興業所属の芸人による演劇ショー (ホールサポーター養成・育成)	8/5	大沢野町民文化会館
	8/6	立山町民会館
	8/30	大門町総合会館
	8/31	庄川ふれあいセンター
アフリカン・パーカッション・ワークショップ		
アフリカン・パーカッション・ワークショップ	8/17	小杉町文化ホール
	8/22～24	福野町文化創造センター
アート・マネージメント・シンポジウム		
富山県東部地区	未定	富山県東部(未定)
富山県西部地区	未定	富山県西部(未定)

■文化ホールネットワーク公演事業の企画・制作年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局				←	←	←	←	←	●			
				↑			↑					
							↓					
加盟ホール			←	←	←	←	←	←	←	●	←	←

事務局: 各館提案の取りまとめ (7月～9月), 実施公演内容・開催ホール調整 (10月～11月), 次年度公演内容・開催ホール決定 (12月)

加盟ホール: 次年度企画検討・提案 (5月～6月), 事業内容・予算検討 (10月～11月), 来年度予算決定 (12月), 本格的な準備業務開始 (1月～3月)

平成9年度富山県文化ホールネットワーク公演事業例



和栗由紀夫 わぐりゆきお
舞踏ダンサー/好善社主宰

1972年より舞踏の創始者である土方 巖に師事。現在、和栗由紀夫+好善社を主宰し、東京を中心に活動を展開している。代表作品に「青い柱」「日月露」「野の唄」など。CD-ROM「舞踏花伝」として発表される。今回の新作は、富山の7回目の発表作品となる。



岡崎 忍 おかざきしのぶ

草月流舞奏会会長
1954年 富山市生まれ
1977年 武蔵野美術大学デザイン科卒業
1979年 同大学卒業後、毎月工務に入社
勤修河原 泉 家元の制作アシスタント
専ら工務を担い、独立
1987年 富山県芸術文化協会奨励賞受賞
1990年 やまぎ賞受賞
1991年 草月流富山県支部舞奏会会長に就任
1994年 第4回保護 (草月会館)
1997年 本館主催地方研究会講師 (福島 福井 富岡)



千 章修 せん あさのぶ

シテ方宝生流
1928年生まれ 富山市在住
1969年 初シテ「猿々」「乱」などを演じ
「石橋」「追成寺」「翁」などを演じ
富山県能楽団体連絡協議会会長
富山県宝生会副会長兼能楽委員長
富山新聞芸能部/北日本新聞文化賞
富山市文化功労賞/富山県文化功労賞
などを受賞する

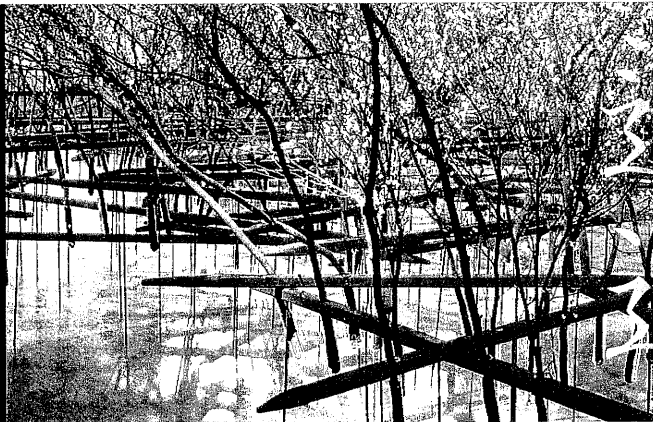


稲見之羽子 いなみのほこ

チェロ奏者/学校法人富山音楽院院長
富山市生まれ
武蔵野音楽大学器楽科チェロ専攻卒業
1990年 (学)富山音楽院40周年記念公演
(N)権員とともに演奏
1992年 ベルサイユ祭(フランス)に参加
1993年 ドボルツァークのチェロ協奏曲
を演奏(むさしの会)
1996年 ラフマニノフチェロソナタを演奏
(富山音楽院サマーコンサート)
1997年 学校法人富山音楽院院長に就任
その他室内楽・弦楽合奏・オペラ
等多数参加

●スタッフ

振付・演出/和栗由紀夫
舞台監督/北条 孝
照明/相川 正明
衣裳/谷口 佳城
音監/金沢 朝台
制作/ナガシマヨシホ(マイリストーン・アートワークス)
和栗コハナ(好善社)
宣伝/菅原/岩切 等
宣伝美術/押切屋之
印刷/大東印刷(株)
協力/草月流舞奏会 ホール・ボランティア



舞踏 道遥

舞踏 和栗由紀夫+好善社 美術 岡崎 忍

平成9年度富山県文化ホールネットワーク公演事業

富山県民会館

砺波市文化会館

「彼方」 新版 善知鳥

舞踏・花・音・光の響宴

一九九八年二月二十八日(土)午後二時開場 二時半開演
「彼方」とは見果てぬ夢。過去とは私たちにいつつ、つねに遠のいていく風景である。今という時も、暗時にして過去に迷って替わる。つまり私たちが身体とはいつも直す。過去と現在と未来の交差する場所なのである。だから、何が起きてもし不思議ではない。むしろ、一番不思議なのは、自分自身かもしれない。世界で一番遠いのが自分の身体なのだから。今回は「立山」を主題とした能「善知鳥」を中心に、能楽・西洋クラシック音楽・生け花・舞踏という月の住人たちによって雪見の一夜が催される。
第一章「善知鳥」 生と死が交流し葛藤する客物としての身体
第二章「聖」 月にまつわるさまざまな神話を題材に
第三章「月狂い」 私たちの皮膚に刻まれた記憶
第四章「地図」

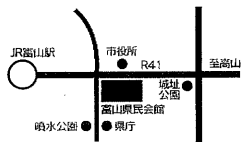
2/28

チケット ¥3,500

- ・出演者
和栗由紀夫
川本タチ子
堅田知里
島田明日香
十亀修之介
鈴木康弘
美術
岡崎 忍 (草月流)
能楽
千 章修 (謡)
大間知良夫 (謡)
勢澤邦彦 (大鼓)
石政弥一 (小鼓)
千くみ子 (笛)
稲見之羽子 (チェロ)
朝木裕美 (チェロ)
里見治美 (ピアノ)



富山県民会館



富山県民会館
富山市新緑通4-18 TEL 0764-32-3111

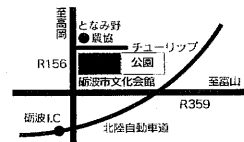


[両館共通チケット ¥5,000]

2/1

チケット ¥2,000

- ・出演者
和栗由紀夫
川本タチ子
堅田知里
美術 岡崎 忍 (草月流)



砺波市文化会館
砺波市花園町1-32 TEL 0763-33-5515

舞踏ワークショップ

日時: 1997年10月~1998年2月
(金/19:00-21:00、土/13:00-16:00)
会場: 富山県民会館 (参加費: 無料)

講師: 和栗由紀夫 定員: 30名 約2~3時間/金・土2日間×5回
対象: 10歳~健康で身体表現に興味のある方(経験は問いません)
※5回のワークショップに、連続して参加できる方を募集しています。
※受講生の中から15~20名程度富山公演に出演していただく予定
※お問い合わせ、お申し込みは富山県民会館までTEL 0764-32-3111

- 主催/富山県民会館 砺波市文化会館 富山県民小劇場
- 共催/北日本新聞社 北日本放送 FMとやま
- 後援/富山県 富山県教育委員会 富山市 富山市教育委員会 砺波市 砺波市教育委員会 富山県公立文化施設協議会 (財)富山県文化振興財団 砺波市文化協会 富山県能楽団体連絡協議会 草月流舞奏会

チケット取扱いプレイガイド

- 富山県民会館 富山県民小劇場 北日本新聞文化センター 富山西武 大和富山店 インフォーマット(CIC・市民プラザ) マイリストーン・アート・ワークス
- 開道堂末広町店 大和高岡店 戸出ハニー 砺波市文化会館 クロスランドおやべ へリオス(福野) ベル(福光) アスモ(井波)

●お問い合わせは…… 富山県民会館 TEL 0764-32-3111 砺波市文化会館 TEL 0763-33-5515 マイリストーン・アート・ワークス TEL 0764-93-9777

■ホールサポーター募集広告■

ホールサポーター募集

業務内容

- ① 舞台設営及び舞台・音響・照明操作
- ② 入場整理・入場券もぎり・客席案内及び楽屋の世話等
- ③ 文化事業の企画・運営
- ④ 友の会会員として文化事業を支援

※施設によって業務内容が異なりますので、詳細については、各文化ホールに直接お問い合わせ下さい。

募集先

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 入善町民会館……………0765-72-1105 | 小杉町文化ホール……………0766-56-1515 |
| 黒部市国際文化センター…0765-57-1201 | 新湊市中央文化会館……………0766-82-8400 |
| 新川文化ホール……………0765-23-1123 | 高岡市民会館……………0766-20-1560 |
| 立山町民会館……………0764-63-3535 | 富山県高岡文化ホール………0766-25-4141 |
| 大山町民文化会館……………0764-83-0001 | 福岡町総合町民センター…0766-64-1030 |
| 大沢野町民文化会館……………0764-68-1191 | クロスランドおやべ……………0766-68-0932 |
| 富山県民会館……………0764-32-3111 | 砺波市文化会館……………0763-33-5515 |
| 富山県教育文化会館……………0764-41-8635 | 福野文化創造センター………0763-22-1125 |
| 富山県民小劇場……………0764-45-4531 | 井波町総合文化センター…0763-82-5885 |
| とやま自遊館……………0764-44-2100 | |

ホールサポーター養成講座

受講者募集

ホールサポーターに関心のある方なら、どなたでも受講できます。

- 申込方法 電話でお申し込みください。
- 申込先 富山県高岡文化ホール 電話 0766-25-4141
- 申込期間 平成9年8月20日(水)まで(9時～18時、ただし火曜日は休館です。)
- 主催 富山県公立文化施設協議会

無料

内 容	講 師	日	時 間	場 所	定員	
講演「私たちのまちづくり (文化ホールがまちをつくる)」	武生国際音楽祭推進会議 事務局長 山本有一郎氏	8月23日(土)	14:30～16:00	県民会館401号室	150名	
基礎講座	舞台概論	公立文化ホール職員	8月29日(金)	18:30～21:00	教育文化会館ホール	40名
	音響概論	公立文化ホール職員	9月 1日(月)	18:30～21:00	教育文化会館ホール	40名
	照明概論	公立文化ホール職員	9月 3日(水)	18:30～21:00	教育文化会館ホール	40名

■富山県公立文化施設協議会インターネットホームページ■

TOYAMA-ken koritsu bunka shisetsu kyogikai

1/1 ページ

ようこそ, 富山県公立文化施設協議会のホームページへ

このWebでは富山県公立文化施設協議会の活動と 富山県内32施設の情報をご案内しています。

*Last updated, 1997/10/1
Last modified, 1997/10/12*

3667 番目の来場者としてお迎えしています。



- ・ **施設・イベント情報**では、富山県内の32の公立文化施設等で開催されるイベント情報と施設概要を案内しています。
- ・ 各地の文化施設をサポートする **友の会 及び ステージボランティア**を募集しています。詳細はそれぞれのコーナーをご覧ください。
- ・ 富山県公立文化施設協議会が富山県及び県内市町村の助成を受け開催する、**ネットワーク事業**の内容が決定しました。通常より低額ですばらしい文化の鑑賞の機会を提供する企画です。皆様のご来場をお待ちしております。
- ・ ご意見・ご感想は、**アンケートボックス**にお寄せ下さい。
- ・ 注目! **第1回富山県民芸術文化祭案内**

このホームページに関するご質問・ご意見には、折り返し回答させていただくためにも 住所・氏名・電話番号・電子メールアドレス等を明記して下さい。
また、チケット予約等は現在電子メールでは取り扱うことができませんので、直接に主催される団体へ連絡をとって下さい。

<mailto:mirage@nsknet.or.jp>

ポリテクカレッジ富山(所在:魚津市)がHTML記述やデザインに協力しています。
各ページは HTML 3.0 でデザインしています。Netscape2.02以降で見られることをおすすめします。

類似ホール企画連絡会議



※H9/7 第3回会議参加団体

設立年	平成8年7月
地域	全国
ジャンル	音楽
設立の目的	所在都市の人口規模(音楽ファン層の厚み)、客席規模、公演ジャンルの類似するホール同士での自主事業担当者レベルの情報交換からネットワーク公演の共同企画・制作を目指す
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換会の開催(過去3回開催) ネットワーク公演の共同企画・制作 「ノボシビルスク・フェスティバル」、「PMF オーケストラ公演」 「ベートーベン第九～シャンゼリゼ管弦楽団、コンチェルト・ボーカレ」(企画中)
加盟機関数	13団体 H9/7 第3回会議出席
加盟機関属性	所在都市の人口規模(音楽ファン層の厚み)、客席規模、公演ジャンルの類似するホール
年会費	なし 会議運営費は持回り幹事ホールの負担
事業費	各公演毎に異なる(基本は公演ホール間で調整)
公的助成	現在のところなし
事務局	持回り

 類似ホール企画連絡会議

ヒアリング記録

1997/10/31

京都コンサートホール

財団法人京都市音楽芸術振興財団 | チーフプロデューサー 横山邦彦氏, 企画部次長 鈴木康之氏

 京都コンサートホールの概要

- 京都コンサートホールは、京都市が昭和 53 年に発表した「世界文化自由都市宣言」(広く世界と文化的に交わることによって優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市)を具現化するモニュメントとして、また建都 1200 年事業の中核施設として平成 7 年 10 月に開館したクラシック専用ホールでパイプオルガン(90 ストップ)をもつ大ホール(1,839 席)と小ホール(514 席)からなる。
 - ホール運営は、当ホール業務のみを所管するために平成 5 年 3 月に設立された財団法人京都市音楽芸術振興財団が担当しており、職員数 13 名、うち企画部門は職員 2 名、アルバイト・委託職員 4 名の 6 名体制である。
 - 当ホールは設立当初から現在に至るまで次の 5 つを活動方針の柱と掲げ、これに沿った自主公演事業を年間約 25 事業・40 公演(大・小ホール合計)実施している。①世界・日本珠玉の演奏(世界のトップクラスの演奏家による公演)、②京の響(S43 年市直営オーケストラとして誕生した京都市交響楽団の公演)、③東洋の音 伝承と発見(京都ならではの日本の伝統音楽と西洋音楽の融合)、④国際交流 姉妹都市の響(京都市の姉妹都市との音楽を通じた交流拠点づくり)、⑤京の音楽教育の成果(京都で育った音楽家の PR)
 - 年間予算の 6.5 億円のうち、基本財産 5000 万円の運用収入は現在見込める状況にならないため、収入の多くは事業収入と京都市からの補助金収入による。事業収入の内訳は自主事業収入 1.7 億円、貸館収入 1.6 億円と約半々である。
 - 当財団では、自主公演事業、貸館事業の他に、友の会制度の運営、ホールオリジナルグッズの販売等も行っている。
-

1. ネットワーク活動の概要

(1) ネットワーク活動の経緯・目的

- 少人数スタッフによる運営で、低料金かつ質の高い公演の実現を求められているなか、当ホール設立当初の 2 つの公演経験がネットワーク活動組織化の直接の契機となった。
- 一つは、フィレンツェの音楽団体の招聘公演時に、共催予定のひとつであった岐阜市文化会館での公演が不可能となり、結局富山との 2 公演となったため、当初予算の倍程度のコストがかかった例。もう一つは、京都と姉妹都市である中国の民族オーケストラを招聘した際に、同じく姉妹都市関係にある香川県と奈良県(市)の共催を得て公演は実現したが、企画を行った当ホールが各ホールでの公演当日の準備までほとんど全て

の業務を担当せざるをえず、スタッフの業務量が膨大となってしまった例である。この2つの経験から、自主公演の企画段階から他ホールと事前に気軽に情報交換が可能で、かつ実際の共催公演実施時には、準備業務やコスト負担での協力体制が組める仕組みができないか考えた。

- 全国的には、公文協はじめ文化団体、ホールの連絡組織があることは承知していたが、オープニング事業と取り組むうちに、共通項をもつホール同士が共同作業に取り組まない限り、具体的な成果があげられないことを痛感し、「共通項とは何か」の模索と具体化の可能性を求める話し合いの場の必要性が高まった。
- その折、京都と同時期に開館した札幌コンサートホールと情報交換する中で、当ホールと札幌市の都市規模、ホールの目指すものが似ており、ネットワーク化の話を持ち掛けたところ賛同を得て、具体的な組織化が始まった。
- 名称にある類似ホールとは、人口規模、音楽ファン層の厚み等の都市レベルとホール規模が類似しているところを指し、実際に公演のネットワークを組む場合に、企画段階から共同して制作を行えるホールをイメージしている。
- なお、ネットワーク公演は音楽事務所からの買取りではなく、一からの企画・制作を基本としている。特に、海外ものの招聘は時間と労力が膨大となり単館ではやりきれないため、ネットワーク化を積極的に行いたいと考えている。
- このネットワーク活動を通じ、1回だけに終わりがちなローカル公演を他地域でも開催することにより、地方文化を刺激できたらとも考えた。

(2) ネットワークへの参加ホールと具体的な活動内容

- これまでに平成8年7月の初回から会議を3回開催するとともに、参加ホール間での公演ネットワーク化の実績が生まれている。
- 京都、札幌と類似している各ホールに対して広く参加案内を送り、趣旨に賛同を得たホールに会議に参加してもらっているため参加ホールは固定的ではない。
- 会議の事務局および開催場所は持ち回りとしている。
- 会議ではこれまで、各ホール共通の問題点、企画立案以前の情報交換の必要性、自主企画の現状報告、共同企画・共同広報の可能性、助成金獲得方策、単年度予算制度等についての意見交換がなされている。

「類似ホール企画連絡会議」開催状況

- 第1回：平成8年7月(開催地：札幌市)

参加：4団体(京都市、札幌市、愛知県、福井県：正式名は第3回参照)

議題：共同企画・共同購入の可能性、企画立案以前の情報交換の必要性、

1997,1998年の企画案等

PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)ワークショップ視察

- 第2回：平成8年9月(開催地：京都市)

参加：10団体(札幌市、東京北区、神奈川県、三重県、福井県、神戸市、岡山市、福山市、香川県、鳥取県)

第1回参加の愛知県は自主事業予算の制約から参加を見合わせ

議題：共通の問題点、自主企画現状報告、共同企画・共同広報の可能性、助成金獲得方策、単年度予算制度 等

京都コンサートホール、京都市交響楽団練習場視察

・第3回：平成9年7月(開催地：神奈川県)

参加：13団体((財)札幌芸術の森、(財)岩手県文化振興事業団、北とぴあ国際音楽祭実行委員会、(財)神奈川芸術文化財団、(財)横浜市文化振興財団、(財)藤沢市芸術文化振興財団、(財)埼玉県芸術文化振興財団、(財)アクトシティ浜松運営財団、(財)ふくやま芸術文化振興財団、(財)鳥取県文化振興財団、(財)岡山シンフォニーホール、(財)京都市音楽芸術振興財団、香川県県民ホール)

・第4回：平成9年度中予定(開催地：福山市)

- 会議等を通じた情報交換から実現した共催公演例として、京都で開催した「ノボシビルスク・フェスティバル」における札幌市からの写真・パネル・パンフレット等の提供やシンポジウム講演者紹介、札幌市のPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)オーケストラの京都初公演がある。
- 訪日中のオランダのアマチュアオーケストラ「ホームステッド管弦楽団」の京都公演の際に、国際文化交流事業としてスポンサーつきで鳥取県民会館へ京都から紹介、演奏会と交流をホール代負担のみで実現させた例も類似ホール会議で担当者が知り合ったことの成果である。
- 現在進行中の企画としては、フランスのシャンゼリゼ管弦楽団とコンチェルト・ボーカレによるベートーベンの第九公演について、北とぴあ、札幌、京都に加え更に1～2館の参加募集を当会議の席上で発表し協力要請を行っている。また、札幌が招聘するノートルダム寺院の専属オルガニスト、ラトリー氏の京都公演も計画中である。
- この他、平成10年春の香川県主催の中国歌劇団の公演についてもネットワーク化の可能性を検討中である。
- なお、当会議を開始する以前にも当ホールと東京北区の「北とぴあ」において、平成7年秋に京都企画の「ザ・ボストン・カメラータ」の共催、平成8年秋には北とぴあにて実施された音楽祭への参加古楽器楽団、ジョルジュ・サバールの「エスペリオン40」による京都公演を実現している。

(3) 参加各ホールの役割分担、運営方法

- 定例会議は各都市の持ち回りとし、事務局および会議場の提供をお願いしている。
- 共催公演は参加全ホールでの公演とするのではなく、希望ホール同士での実施であり、その企画・制作段階での各ホールの役割分担はその時々で異なる。先の第九公演の例では、企画の先行していた北とぴあがフランスとの交渉業務を、京都市が他ホールへの参加呼びかけを行うという業務分担がなされている。

(4) 民間ホールとの連携

- 仮に当連絡会議にて企画した共催公演が具体化した場合には、共催先として民間ホールも参加の可能性はある。但し、当連絡会議が各公立ホールの持つ共通する課題の情報交換や相談の場でもあることから、公演の共催以外では民間ホールと同じ土俵に乗りにくい点、当ホールの企画担当が民間からの人材であり民間サイドのノウハウを既に保有している点等から、現在は積極的に民間ホールからの参加を募っていない。

(5) 経費負担および公的支援の活用状況

- 会議において交換する情報の価値は金銭には代えられないこともあり、当連絡会議開催のための会費の徴収は行っておらず、会議への参加費(旅費、日当、開催地運営費等)は各ホール負担である。
- 共催公演の事業費(公演者国内旅費、ホテル宿泊代等)負担は、実施ホール間で決められるルールに基づいてその都度決定されることが基本となろう。現在進行中である第九公演における各ホールの事業費負担方法については未定である。
- 共催公演への助成獲得は是非とも行いたいと考えているが、助成資格をクリアするために必要となる準備業務や申請書類の作成業務負担が大きく、日常業務で手一杯の現状にあっては助成申請は行っていない。できれば、海外招聘公演の入場料の高さを解決するためにも今後は助成に期待していきたい。当面、第九公演から国際交流基金や地域創造等に対して助成の申請を行いたいと考えている。出来得れば、助成申請手続きの簡略化が望まれる。
- 京都府では、府内の公立ホールが行う公演に対し府が共催の形で事業費の1/2を補助する「京都府民芸術劇場」助成制度があるが、京都市は対象地域から除かれており、助成は受けていない。

2. ネットワーク活動の効果、問題点・課題等

(1) ネットワーク活動による効果

- ネットワークを組むことによるメリットは、活動を通じ人的ネットワークが構築されることで、他ホールと気軽に様々な情報交換を交わすことが可能となるとともに、他ホールの活動状況に刺激を受け自ホール業務の励みになる点があげられる。これまで貸館業務しか行っていなかった参加ホールでも、ネットワーク活動に参加している若い企画担当者の熱意がホール運営に機能しはじめ、新たに自主公演の企画に前向きに取り組むようになったところも見られる。
- また、類似する複数ホールが共同企画・仕入・販売することにより、①各ホールでの業務分担が可能となり各館スタッフの労力が低減できる点、②公演に必要なコストを相応に分担し合えることで各ホールのコスト削減が可能となり、各ホールでの入場料の低価格化が実現できる点、③国内にて複数の公演先を確保できるため、音楽事務所と海外音楽団体との交渉が行いやすくなり、単一館では呼べないような海外ものの招聘の実現性が高まる等のメリットもある。特に海外アーティストやマネージャーとの交渉の際に、すぐに複数館のネットワークが可能となれば、ホールの信用度が高まり、先方から複数公演に対応したコスト提示を行ってもらえるようになる。

(2) ネットワーク活動の問題点・課題

- 当ネットワーク活動はコンセプトの議論や研修の段階ではなく、実践的なネットワークを目指しているところから、問題点を問題点として考えるのではなく「処理すべき当然のこと」とのたてまえで臨んでいるので、現在のところ問題は発生していない。但し、今後実際にネットワーク公演を具体化していく中で、自ホール業務との兼ね合いにより、共催各ホール間での公演準備時の役割分担をどう行うかの線引きは検討の余地がある。ま

た各ホール間での事業費の負担方法についても、ルール化が必要になるかもしれない。ただとにかく現段階では活動の実績づくりを行いたい。

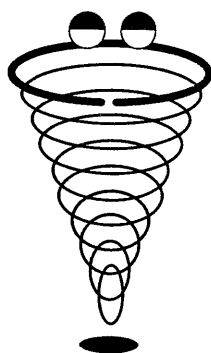
- 参加ホール間において、このネットワーク活動を自主事業として位置づけ、積極的かつ主体的に参加しているホールと、呼びかけに応じて参加している受動的なホールにまだ分かれてしまう。そのため、現在事務局を持ち回りで行っているが、事務局ホールの負担の重さを考慮すると、主体的な取組をしているホールが当面事務局を担当する方法もあったかもしれない。
- 公立ホールのネットワーク活動を維持していく上において、担当者の人事異動による人的ネットワークの断絶は永遠の課題である。現在は人的ネットワークの変化にも対応でき、各ホールが自由にネットワークを活用できるフレキシブルな形態としておいた方が得策であると考え、活動組織はゆるやかな結合体とし、規約等は作成していない。
- 公立ホールがネットワークを組んで直接自主公演の企画・制作、公演者との交渉等を行うことによる公文協や民間音楽事務所とのあつれきについて不安視する声もある。しかし、公文協は既に様々な活動実績を有する成熟している組織でありトラブルはないと考えているし、民間音楽事務所とはツアーマネジメント等の公共が手の届かない業務での役割分担による協力体制が充分成立すると考えており、むしろ補完、共同作業の立場にあるとみている。

(3) ネットワーク活動の将来的な展望

- できれば、全国ツアーに最適な地域バランスをもつホールネットワークの構築が理想であるため、現在参加してもらえていない北陸、九州のホールの参加を呼びかけたい。ただ、全国ツアーの理想的な公演回数は5回から多くて10回迄であり、参加ホール数が30近くにまでなると大きくなりすぎの感がある。
- 現在、発足後間もないため、各ホール間での参加のスタンス、スタッフの熱意にまだまだ差があるが、今後は各ホールが同じ土俵の上で議論ができるレベルに足並みが揃うようにしたい。そうすれば次のレベルにステップアップできる。
- できれば今後、年に大・小各2公演ずつのネットワーク公演を行っていききたいし、ネットワーク公演における広告宣伝の共同化も実現したい。当ホールとしても、パイプオルガンを活用したネットワーク公演を是非行ってみたい。

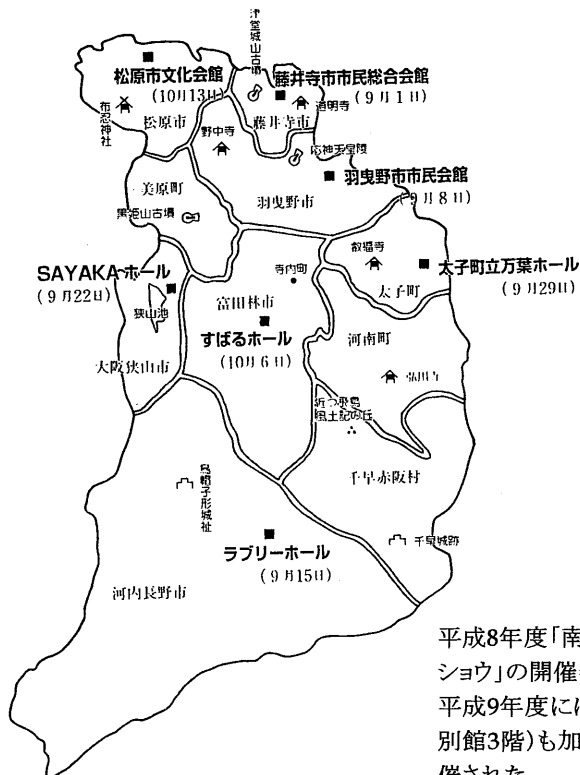
以上

南河内文化会館連絡協議会(南文協)



1997

※シンボルマークの意味
このシンボルマークには水面から広がる波紋が10あり、南河内の10市町村を表します。仲良く肩を組み合ってお互い上昇しようという意味が込められています。



平成8年度「南河内歴史発見
ショー」の開催会場地図。
平成9年度には美原町(役場
別館3階)も加わり8会場で開
催された。

設立年	平成4年4月
地域	大阪府南河内地域
ジャンル	特に限定なし
設立の経緯・目的	昭和55年に南河内地域広域行政推進協議会(南広協)を設立し、圏域発展の指針ともなる南河内地域広域圏計画を策定。その後、平成2年に第二次広域行政圏計画において圏域の将来像を「豊かな自然と歴史の中で、新しい都市文化が息づく“ふれあい創造の郷”みなみかわち」と設定。その施策目標のひとつとして大阪都市圏にありながら大都市にはない風格と魅力ある圏域を創造し、“ふれあい”をテーマとする生涯学習の推進と幅広い交流・情報発信の場として整備することを目指した。 これを受けて、平成3年に「ふれあいネットワーク計画(文化会館のネットワーク計画)」を策定し、既設館を含む文化会館等6館をネットワークさせることで、圏域全体の文化振興を目指すこととした。翌年、南河内文化会館連絡協議会の設立に至る。南河内地域における劇場・ホールの急増も背景にある。
事業内容	リレーイベント「南河内歴史発見ショー」の開催(平成5年度より継続的に開催している) ——同一テーマで各館持ち回りのリレーイベント。各館、地元の歴史に関する講演会と演劇や伝統芸能などの公演がセットになっている。同イベント開催にともなう定例会議も実施。
加盟機関数	8団体(平成9年現在)
加盟機関属性	公共ホール
活動経費	年会費 各館 50,000円 リレーイベント参加経費 各館 900,000円
公的助成	財団法人大阪府市町村振興協会からの補助金を、参加各館個別に申請している。
事務局	大阪狭山市文化会館(SAYAKAホール) 大阪狭山市狭山 1-875-1, Tel.0723-65-8700

南河内文化会館連絡協議会

ヒアリング記録

1997/10/30

大阪狭山市文化会館(SAYAKA ホール)

財団法人 大阪狭山市文化振興事業団 | プロデューサー 村地孝明氏, 総務課長 尻谷 実氏

SAYAKA ホールの概要

- 施設概要 | 大ホール(1,208 席)、小ホール(368 席)、コンベンションホール、大会議室、中会議室、文化情報コーナー、展示ホール、ほか
- 平成 6 年度開館
- 主な事業内容 | ①各種文化事業の企画および実施(平成 9 年度は、演劇、ジャズ、ポピュラーコンサート、クラシック、バレエ、オペレッタなど 16 本の自主事業を実施)、②文化情報の収集及び提供、③大阪狭山市文化会館の管理並びに文化事業の受託(SAYAKA ホールの管理業務のほか、市民文化の育成、広域行政に至る文化活動を推進するための受託事業を、平成 9 年度は 9 本実施)、④大阪狭山市市制 10 周年記念事業の受託(市制 10 周年記念事業の一環として、クラシック公演、NHK テレビ番組公開録画など 3 本の事業企画および制作を実施)、⑤その他目的を達成するために必要な事業
- 予算 | 主な財源は、1:基本財産運用収入(約 240 万円)、2:事業収入(自主事業収入、駐車場収入、レストラン収入、舞台・照明・音響技術者派遣委託料収入など)5,314 万円、3: 補助金等収入(施設管理事業収入、市補助金、受託事業収入)40,699 万円、4: 寄付金収入など。

1. ネットワーク活動の概要

(1) ネットワーク活動の経緯・目的

- 南河内地域には、富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、美原町の 10 市町村があり、これらが地域の共通した課題に対応するとともに、各市町村の個性を活かしつつ調和のとれた特色ある住みよい地域づくりをめざして、昭和 55 年に南河内地域広域行政推進協議会(通称:南広協)を設立し、圏域発展の指針ともなる南河内地域広域圏計画を策定してきた。
- 平成 2(1994 年)年度には第二次広域行政圏計画において、圏域の将来像を「豊かな自然と歴史の中で、新しい都市文化が息づく“ふれあい創造の郷”みなみかわち」と設定している。その施策目標のひとつに大阪都市圏にありながら大都市にはない風格と魅力のある圏域を創造し、“ふれあい”をテーマとする生涯学習の推進と幅広い交流・情報発信の場として整備していくことを目指している。
- このため、平成 3(1995)年に「ふれあいネットワーク計画(文化会館のネットワーク計画)」を策定し、既設館を含む 6 市の文化会館等を有効にネットワークさせることで、圏域全体の文化振興を目指すこととした。

- 『南河内文化会館連絡協議会』(通称:南文協)の設立は、近隣地域に劇場・ホールが急増したことが背景にある。例えば、既存の羽曳野市市民会館(設立:昭和44年)、藤井寺市立市民総合会館(昭和48年)、松原市文化会館(昭和52年)に加え、平成3年に富田林市のすばるホール、河内長野市のラブリーホール(河内長野市文化会館)が開館している。平成4(1996)年4月になって規約ができ、SAYAKAホールはその後参加している。当初から中心的な役割を担っているのは、藤井寺、羽曳野、松原各市のホールで、いずれも古くからあるホール。
- ネットワークによる活動は、同一地域内で企画がバッティングすることを避ける目的もある。また、各ホールの個性を出すために、大阪狭山市は演劇、河内長野市は音楽、富田林市が科学と音楽、などといったようなテーマを個別に設定している。

「ふれあいネットワーク計画」より(平成3年3月)

圏域の概況

本圏域は、大阪府の東南部に位置し、北は大和川を境に大阪市及び東大阪地域に、西は泉州地域に、東から南にかけては金剛山系・和泉山脈をへだてて奈良県・和歌山県につながっており、面積は大阪府域の約16%(総面積303.14平方キロ)、人口は約66万人を擁している。

本圏域は、我が国有数の大都市である大阪市に近接しているため、高度経済成長期以降、主に鉄道沿線や丘陵部において大幅な人口増加を示し、大都市圏の近郊住宅地として発展してきた。

一方、圏域中部から広がる河内平野には、石川を中心として古くから農地が拓かれ、現在も都市近郊型農業が盛んで府民の食料供給基地として重要な役割を担っている。

また、本圏域は、古来よりたびたび日本史の舞台となった地域であり、古墳群、神社・仏閣や近世の町並みなど古代から近世にかけての重層的な歴史環境を有している。

大都市近郊にありながら自然環境に恵まれ、歴史文化遺産が豊富な本圏域は、教育環境の面からも注目され、現在では大学や研究機関が立地する文教地区としても重視されてきており、大阪府総合計画においては、「教育文化ゾーン」として位置づけられている。

(2) 具体的な活動内容

- リレーイベント「南河内歴史発見ショウ」は、平成7(1995)年から始まった。新しいホールが出そろったところで、具体的な共同事業の実施に至っている。
- リレーイベントの企画の発端は、平成6年の主催者会議。そこで案が持ち寄られ、具体化した。地域性を重視していたことと、平成6年、7年度は河内長野市のラブリーホールが会長館で、この地域が古代から歴史の町であったことなどから、“歴史”に関する事業を行なうことになった。
- 南文協の定例会議は、館長会議が2月に1回、担当者の会議(主催者会)が月に1

回。ここで具体的な事業の中身が検討されている。平成8年、9年度はSAYAKAホールが会長(事務局役)を務めている。

- リレーイベント開催に際し、南文協のシンボルマークをつくった。リレーイベントの際、イベント開催地の市長から次の担当市長にこのシンボルマークの入った旗の授与式がある。これで“リレー”の雰囲気盛り上げた。
- 第1回目は、一人の講演者が参加全6館をまわって各々の地域にちなんだ話をした。個々のイベントの構成は、初回の場合、①共通講師である浜村淳さんの講演、②6つのホールの土地ゆかりの歴史について専門家の講演、③各館異なる公演(演劇、伝統芸能、コーラス、芸能など)、となっていた。
- 翌年度(平成8年)は、一人の共通講師が全ての館をまわることが難しいとの反省から、その部分を二人の講師で対応することとした。参加館は7館。基本的な構成は平成7年度の初回と同様。
- 平成9年には、参加館が8館に増えた。
- 各々のホール特性を出そうということになり、また①共通講師+②個別の講師という構成・フォーマットもイベントの時間として長すぎるという声もあり、共通講演部分をやめて、①専門家の話+②公演・パフォーマンスという構成に変更した。

(3) 参加各ホールの役割分担、運営方法

- 各々のイベントの制作は、開催各館で担当する。講師の交渉も含む。
- リレーイベント全体(共通)のチラシもあるが、それだけでは不十分と判断するホールは、個別に自ホールで開催されるイベントのチラシを制作している。SAYAKAホールもリレーイベント用のチラシは独自に作成している。
- 会長館は、定例会議の座長を務めるだけでなく、財政面の管理・調整、次年度の企画、日程調整、全体構成、議事録作成、全体チラシのデザイン・制作、プログラムの制作、プロフィール・写真の入手、チケットの制作・販売、などなどさまざまな業務を引き受けている。
- 参加館のなかに、市町直営館と財団運営館があり、運営方法や予算の支出の違いで対応に時間がかかることがある。直営館には、財団運営館にはない行政特有の仕事の進め方があるため、足並みがそろにくい。

(4) 経費負担および公的支援の活用状況

- ネットワーク活動の経費については、平成9年度南文協館長会議の経費として各館年間5万円、リレーイベントの参加経費として各館90万円を負担している。
- リレーイベントの売り上げは、共通券については一旦事務局でプールして、最後に各館均等に分けられる。各館ごとの単独入場券は、各館の売り上げにしている。共通券(パスポート券)は、すべての会場に入場できるもので、単価2,500円。今年度は130,000円の売り上げがあったので、52枚売れた計算になる。各ホール同士の距離としては、富田林市のホールを中心に各ホール30分程度。リレーイベントで全てのホールをまわるとは、時間的・距離的にはそれほど大変なことではない。
- 各館から徴収している90万円の負担金は、共通チラシ、パンフレットの制作など、共通部分の経費として使っている。
- 南文協の事務局としては、毎年経費をプラスマイナス・ゼロになるように務めている。こ

これは、南文協が現時点では任意団体であることから、税金問題も関係している。

- イベント毎の各館の予算構造としては、① 90 万円ずつの負担金、②(財)大阪府市町村振興協会等からの補助金、③各館独自予算、があり、総事業費はチケット収入と各館負担分の合計。②の補助金については、各館個別に申請している。

2. ネットワーク活動の効果、問題点・課題等

(1) ネットワーク活動による効果

- 「リレーイベント」を通じたネットワーク活動の効果としては、“南河内”という地域がひとつというような気になることが挙げられる。リレーイベント以外でも日常的に担当者が情報交換できるようになった。
- 実際、大阪狭山市は市民の半分が以前からこの地域に住んでいる人達、もう半分が大阪市のベッドタウンとして近年居住をはじめた人達。この二つの層にギャップがある。「リレーイベント:歴史発見ショー」に参加することで、新しい住民は各市町村の歴史を発見し、昔からの市民も当該市の歴史を再認識できるという意味で、非常に意義のある事業だと思っている。ニュータウンと旧地区がまざりあい、共通の話題をつくりだせることが重要。
- また、近隣市町村の歴史についてもあわせて学ぶことで、お互いの歴史を通じて「横」にも「過去」にも目が開かれていく。そうすることで、「将来、この町をどうするか」という考えに至ると思っている。実際、その場所に行ってみないとわからないことはたくさんある。
- 「リレーイベント」への参加各館によってメリットは異なるかもしれない。

(2) ネットワーク活動の問題点・課題

- 今後の課題は、「リレーイベント」の継続性。いつまで足並みをそろえて事業ができるか、継続してやっていけるかが問題。特に参加ホールの中で比較的小さい市町村が、継続して参加できるような仕組みづくりが必要かもしれない。

(3) 将来的な展望について

- 「リレーイベント」は、テーマ的には来年も継続していく予定。これまで進めている“歴史”という観点以外に、8 館に共通していて、かつ地域に密着したテーマというのは他になかなか考えにくい。実際、どこの館でもほぼチケットは売れているようで、「来年から参加を見直したい」というような声は聞こえて来ない。
- この地域は、“歴史”というテーマで、地域に根差したイベント「リレーイベント」を堂々とつくれるだけの“歴史的遺産”があることは有り難い。
- 今後は、地域の芸術家を発掘することも考えたい。
- ネットワーク化は、必然的になるべくしてなったと思うが、南広協(南河内地域広域行政推進協議会)が既に存在していたこと、発足当時の担当者の熱意も非常に大きかったと思う。

以上

平成9年度 南河内文化会館連絡協議会 予算

収入の部 (単位:円)

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 会費	400,000	400,000	0	8館×50,000円(館長会議)
2. 雑収入	1,000	1,000	0	預金利息等
3. 前期繰越金	94,047	174,689	-80,642	前年度繰越金
合計	495,047	575,689	-80,642	

支出の部

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 会議費	200,000	300,000	-100,000	館長及び主担者会議賄等
2. 事務費	50,000	60,000	-10,000	一般事務用消耗品等
3. 研修費	240,000	210,000	30,000	管外先進地視察及び研修会等
4. 雑費	5,047	5,689	-642	
合計	495,047	575,689	-80,642	

平成9年度 南河内文化会館連絡協議会 (南文協リレーイベント) 予算

収入の部 (単位:円)

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 負担金	7,200,000	5,600,000	1,600,000	8館×900,000円
2. 雑収入	1,000	0	1,000	預金利息
3. 前期繰越金	2,366	1,331	1,035	前年度の繰越し金
合計	7,203,366	5,601,331	1,602,035	

支出の部 (単位:円)

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 制作費	3,600,000	2,450,000	1,150,000	講師料等 1館 450,000円
2. 広告宣伝費	2,074,800	2,060,000	14,800	ポスター、チラシ、チケット、プログラム等
3. 記録費	1,501,500	1,090,000	411,500	冊子制作費(8館)
4. 消耗品費	10,000	0	10,000	消耗品等
5. 租税公課	4,000	0	4,000	印紙代等
6. 雑費	13,066	1,331	11,735	その他
合計	7,203,366	5,601,331	1,602,035	

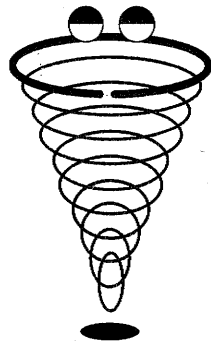
■リレーイベント各企画内容■

(平成29年5月6日現在)

会場名	公演日	時間	歴史講演	独自イベント	司会者	備考
藤井寺市民総合会館 別館中ホール (400席)	8月31日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「允恭(いんぎょう)天皇とその后(きさき)たち」 塚口森信(埼玉女子短期大学学長 文学博士)	(講演)「桜・梅・菊の古代日本人との関わり」 妻鹿加年雄(NHK番組「趣味の園芸」講師)	香月マキ	
羽曳野市民会館 (340席)	9月7日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「雄略天皇陵考」 堀田啓一(高野山大学教授)	(1)「羽曳野今昔(仮)」 難波利三(作家) (2)羽曳野太鼓と津軽三味線のひびき 和菜童子(竹田 傑・竹田直郎・北村敬明と市民)	香月マキ	
ラブリールホール (河内長野市・千早赤阪村)	9月14日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「蘇我・物部の乱と南河内」 作家 黒岩重吾	「南河内のうた」 (1)切音頭(太鼓おどり) 楠瀬会 (2)歌 岩井ゆき子 (3)やん丸節 岩井会	嶋田洋子	
太子町立万葉ホール (300席)	9月21日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「中国の石窟寺と鹿谷寺」 前園実知雄(奈良県立歴史考古学研究所資料室室長)	「画面から飛び出た南河内の歴史」 桑原征平(関西テレビアナウンサー)	香月マキ	
美原町 (美原町役場別館3階)	9月28日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「古代の“みはら”を語る」 水野正好(奈良大学学長)	(講演)「文福のふるさとふれあい節」 桂文福(浮語家)	未定	
すばるホール (富田林市・河南町) (800席)	10月5日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「雷田林寺内町と石上露子」 脇田修(大阪大学名誉教授)	「露子をうたう」 テノール/中納俊夫(大阪芸術大学教授) ソプラノ/萩原美智子・宮本康子	鈴木澄代	
松原市文化会館 (610席)	10月12日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「屯倉(みやげ) 神社と天神信仰」 妻屋宏(屯倉神社宮司、元松原小学校校長)	「舞楽と河内音頭」 ・天王寺舞楽:天王寺楽所 雅亮会 ・河内ふるさと音頭:土田哲平、河内音頭三音会 他	鈴木澄代	
SAYAKAホール 小ホール (368席)	10月19日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「子守唄が代弁する河内地方の女性史」 もず晴平 (作詞家/歌手) 大塚敦子(文化振興事業団理事) 証言者: (1) 松房由紀 (2) 酒野晶子	狭山伝説に芽吹く 創作パフォーマンス「五ツの石」 フランソワ舞踊部 山内恵子(振付・舞踊) ユウガ舞楽 古谷哲也(台本・作曲・語り・演奏) オカリナ奏者 井上サトル 他	河野穂富子	

リレーイベント 南河内歴史発見ショー

1997年8月31日(日)～10月19日(日)



1997

主催/南河内文化会館連絡協議会(略称=南文協)・南河内地域広域行政推進協議会(略称=南広協)
(富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村・美原町)
この事業は、(財)大阪府市町村振興協会の助成を受けています。

※シンボルマークの意味
このシンボルマークには水面から低がる波紋が10あり、南河内の10市町村を表します。仲良く肩を組み合ってお互いの上昇しようという意味が込められています。

8/31 午後2時始 **藤井寺市立市民総合会館 (別館 中ホール)**
☎0729-39-7020

【歴史講演】

「允恭天皇とその后たち—5世紀における王権の争奪—」

司会/香月マキ
歴史学者 塚口義信
「倭の五王」が活躍した5世紀は、「巨大古墳の世紀」ともいわれるように、日本の各地に巨大前方後円墳が築造され、王権がいちじるしく伸張した時代として知られています。ところが、「古事記」や「日本書紀」によると、この時代には王位継承をめぐる争いが相次いで勃発し、国内は騒然としていたと伝えられています。

この講演では、藤井寺市に葬られたとされている允恭天皇(倭王)と二人のキサキ(忍坂大中庭とその妹の弟姫)をめぐる物語を手がかりに、5世紀代における王権の争奪の実態とその謎に迫ってみたいと思います。



市野山古墳(允恭天皇塚)

【講演】

「桜・梅・菊の古代日本人との関わり」

司会/香月マキ
NHK番組「趣味の園芸」講師 妻鹿加年雄
桜は農耕民族たる日本人の心のよりどころでした。その桜はどんな植物であったか、なぜ今日まで日本の花木を代表する植物なのかを考えます。梅や菊は日本の植物ではないのに、桜と並んで日本人の生活と切り離せない重要な植物なのはなぜなのかを、中国文明の日本への影響という視点から考えます。こうしたことを通して、觀賞植物というものの成立の背景と人との関わりの一端を覗き見てみようと思います。あわせて、各地で花と結びついた運動が盛んな折から、河内の自然植生と外国原産植物栽培の矛盾点・問題点にできるだけ迫ろうとします。



妻鹿加年雄

9/7 午後2時始 **羽曳野市市民会館**
☎0729-58-2311

【歴史講演】

「雄略天皇陵考」

司会/香月マキ
高野山大学教授 堀田啓一
第21代雄略天皇(尊称は大泊瀬功武尊)は近世以来、文献史家により「素戔嗚尊」の倭王武と見られる。倭王武は5世紀後半頃に活躍した大王で、古代国家形成上の画期をなす。また、重要な金石文資料も発見され、考古学・文献史学を融合した古代学的視点から、雄略天皇陵を中心にその謎に迫ってみたい。

【講演】

「羽曳野を彩る素晴らしき人々」

作家 難波利三
古代から近世まで、羽曳野にかかわりを持った歴史上の有名な人達を架空・実在を問わず、独断的にピックアップして、想像の翼を広げて、たどってみたい。合わせて彼らの今日的な意義にまで、踏み込んで考えられればと思います。



難波利三

【音楽】

「羽曳野太鼓と津軽三味線のひびき」

羽曳野市(竹田隆・竹田直樹・北村俊明)と市民
竹田隆率いる和楽童子は、和楽器演奏では、国内はもとより、海外まで幅広く活躍している邦楽トリオで、太鼓三味線の強い響きとエネルギーは、日本の伝統音楽の持つ哀調と優美さをくまなく醸し出す和楽童子にご期待ください。
また、羽曳野太鼓は、古市太鼓と、不死囃子(しなずばやし)がブレ国体開会式セレモニーで合同演奏し、その後創作太鼓として、新しく結成し、初披露をするものです。



竹田 隆

9/14 午後2時始 **河内長野市 ラブリーホール(小)**
☎0721-56-6100

<このイベントには、千早赤阪村も参加しています>

【歴史講演】

「蘇我・物部の乱と南河内」

司会/嶋田洋子
作家 黒岩重吾
蘇我・物部ともに河内を基盤とする氏族であったが、巨大氏族に成長し、ついに6世紀末には衝突にいたる。この過程を作家黒岩重吾氏が、大きな視座、精密な論証、豊かな感受性をもとに考証される。このふたつの氏族について、特に蘇我氏については、その出自が謎とされているが、黒岩氏はその独自の史観から「蘇我=渡来人」説を立てておられる。「蘇我=渡来人」説の根拠を問うとともに、南河内とこの氏族の深い関係について触れていただく。



黒岩重吾

【音楽】

南河内のうた

切實(太鼓)：嶋田洋子 歌：岩井ゆき子 やんれ節：岩井会
河内長野には広い意味での河内音頭の中で、独自の音頭があります。ひとつは切實節で地元では太鼓おどりと云っており、仲々勇壮なものです。もうひとつはやんれ節で、これも独特の味を持っていますが、このふたつのユニークな音頭を嶋田洋子(なんせんかい)と岩井会の皆さんにお願いします。現代の河内音頭と比べながら聞いて頂くのも一興でしょう。この独特な河内音頭の合間にジャズ歌手岩井ゆき子さんが、南大阪で歌われていた古い歌を披露してくれます。「子守歌」「あらば歌」などですが、おそろく地元ではもう聞かなくなっているかも知れません。岩井さんはこういう古い歌を復元しようとする足で探して、歌っている方です。



岩井会

9/21 午後2時始 **太子町立万葉ホール**
☎0721-98-0300

【歴史講演】

「中国の石窟寺院と鹿谷寺」

奈良国立歴史民俗学研究所資料室室長 前岡実知雄
インドが始まった石窟寺院の造営は、やがて誕生した仏教と共に、パミール高原を越えて、中央アジアの国々に伝播していった。シルクロードを経て、中国に入った仏教と石窟造営の風は各地で流行するが、なかでも敦煌、雲南、竜門などで南北朝から隋、唐代(4世紀後半-9世紀)に華開いた。中国の制度や文物とともに、仏教もまた遣唐使や留学僧達によって積極的に受け入れられた。しかし地理的、風土の相違から、中国であれば築かれた石窟寺院は、わが国では根付くことはなかった。その中で、鹿谷寺の石塔と仏像群は奈良時代の遺構としてその持つ意味は大きいといえる。



鹿谷寺

【講演】

「画面から飛び出た南河内の歴史」

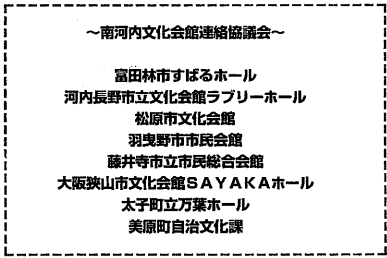
関西テレビアナウンサー 桑原征平
「土曜大好き18:30」「ノックは無用」等でお茶の間の人気を獲得した桑原征平氏が語る南河内の歴史。桑原征平氏は大学卒業後、2年間のサラリーマン時代を経て、新聞公営で関西テレビアナウンサー試験に合格し、アカプルコ死のダイビングやライオンとの格闘で「命知らずのアナウンサー」とよばれる異色アナウンサーとして活躍。関西テレビアナウンサーとして数々の特異な経験をし、また様々な人・文化・歴史を体感してきた経験から、南河内の歴史を現在の日本・南河内、また現在の暮らし・風潮・習慣と照らし合わせながら、「画面から飛び出た南河内の歴史」をテーマに語ります。



桑原征平

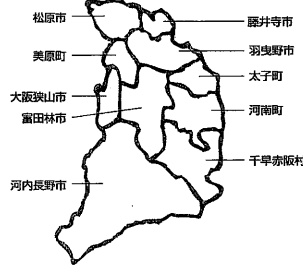
南河内文化会館連絡協議会について

南河内文化会館連絡協議会（略称＝南文協）は平成4年に設立されました。平成3年に策定された「ふれあいネットワーク計画」をもとに、これまで南河内地域の文化振興、文化会館同士の開催事業の調整等を活動の中心として参りました。平成7年度からは共同事業として「われらの郷土・南河内地域の再発見」をテーマに、今回のリレーイベントを企画しています。南河内は歴史の宝庫です。これらの宝物をなおざりにしておく手はありません。歴史をふりかき、歴史に学ぶだけでなく、歴史を楽しむゆとりをもってこそ「文化としての歴史」を享受することが可能になるものだと信じております。またこの共同事業は、これまで「南広協」が開催してきた「南河内再発見シンポジウム」を受け継ぐもので、「南文協」と「南広協」との共催となっております。



南河内地域広域行政推進協議会について

当協議会は、地理的、歴史的、行政的につながる深い南河内地域の6市3町1村（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村・美原町）が広域的課題に取り組むために昭和55年に設けた協議会です。これまでに、「河内ふるさとのみち」整備事業や「ふれあいネットワーク」整備事業などに共同で取り組んできました。平成2年度に策定した第二次南河内地域広域行政圏計画において、圏域の将来像を「豊かな自然と歴史の中で、新しい都市文化が息づく「ふれあい創造の郷」みなみかわち」と設定し、圏域特性を活かした遊・憩・学の機能をもった圏域づくりを目指しています。

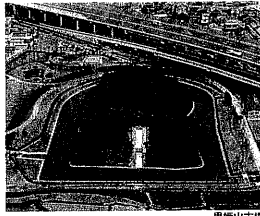


9/28 @ 午後2時始 美原町役場 (別館3階) ☎0723-61-1881

【歴史講演】

「古代の「みはら」を語る」

奈良大学学長 水野正好
美原にはすばらしい遺跡がある。ナウマン象を追う人々が作った石のナイフは1万5千年程前の生活を偲ばせる。堂々たる黒船山古墳は甲冑を死生者にそえた珍しい例。日本中に宣伝された古墳である。丹比・黒山古墳は壘をすばらしい瓦で飾った堂々たる古墳。河内と大和を結ぶ丹比道との関係も興味深い。美原を一層有名にするのは中世のこの地の銅物産業。梵鐘の様な大形品から鍋蓋の様な小物まで、実に色々な器物がこの地から各地へ出ている。梵鐘製作は一時独占的に作られ、後、各地に鋳工が進出していく。日本銅物産業の原産地は、まさにこの地であった。



【講演】

「文福のふるさとふれあい囃し」

落語家 桂文福

昔のなんば花月の楽屋口で、桂小文枝（現五代目文枝）師匠に「おひやん!! 弟子にしてええ。落語で、おもしろい。」と記詞の標準語で入門したのが、26年前。そして、私は今、全国各地で「落語で村（町）おこし」をテーマに「ふるさと寄席」を展開。「ふれあい、わきあいあい」をモットーに展開させてもっています。「南河内郡美原町」なんと美しいひびきでよう。歴史と文化の香りあふれ、皆が楽しく平等に暮らせるふるさと。「ここに住んで良かったな。」そんな声の響む街。今は「文福ふれあい囃し」と河内音頭、相模根曲の名（迷）調子で美原町を表現させていただきます。お楽しみに!!



10/5 @ 午後2時始 富田林市 すばるホール ☎0721-25-0222

【歴史講演】

「富田林寺内町と石上露子」

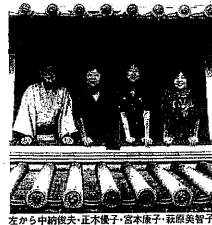
大阪大学名誉教授 脇田 修
石上露子、本名杉山孝。富田林創立八人衆の一人娘である。富田林は、戦国時代に興正寺寺内町として住民主導により創立された自治都市である。杉山家は代々庄屋を努め、大阪府下で有数の大地主として栄えた。露子は、歌人、大正三美人の一人といわれたが、旧家の一人娘ゆえに故郷に帰り、動乱の時代を生きて、戦後ひとりごとと亡くなった。その後、松村緑の研究、山崎豊子「花紋」がでていた。1950年代、私は調査に訪れて露子に信頼された。その面影を偲びながら、露子と富田林の歴史を語りたい。



【音楽】

「露子をうたう」

テノール/中嶋俊夫 ソプラノ/藤原美智子・宮本康子 ピアノ/正木優子
石上露子は、与謝野晶子とともに活躍した明星派の歌人でありながら、その作品は意外と知られていません。中でも、家督相続のために初恋の人と結ばれることができなかった切なさを表した「小板橋」は絶唱と表されています。今回は、その彼女の代表作「小板橋」と数編の短歌に、大阪芸術大学教授の千秋次郎氏により曲をつけていただき、声楽曲として紹介します。明治の南河内に生きた羨しくそして激しい女性の心情を、平成の南河内に生きた中納俊夫氏らが情熱的に歌い上げます。そして後半は、上方落語「骨つり」をオペラ風に特別アレンジした落語オペラ「ゆうれい女房」をお楽しみいたします。



10/12 @ 午後2時始 松原市文化会館 ☎0723-36-5755

【歴史講演】

「屯倉神社と天神信仰」

屯倉神社宮司、元松原小学校校長 妻屋 宏
屯倉神社は江戸時代「三宅天満宮」といわれ、主祭神は菅原道真公をお祀りする天神様であります。「三宅天満宮縁起」によれば、道真公をお祀りする以前から「穂日の社」として菅家の祖神「天穂日命」を祀っていたようで、天慶5年（942年）天満大自在天神を祀ったとされています。なぜこの地で道真公をお祀りするようになったのか、「通りゃんせ通りゃんせ」はどここの細道じゃ 天神様の御道じゃ・・・行きはよいよい帰りは怖い・・・と歌われている天神様は、どういう神様が、天神信仰と人々の願いについて考えてみたいと思います。



【音楽】

「舞楽と河内音頭」

天王寺舞楽 雅楽会 河内ふるさと音頭：上田善平・河内音頭三音会
南河内に大きな足跡を残された聖徳太子と縁の深い四天王寺に伝承されてきた天王寺舞楽は、1976年に国の無形民俗文化財の指定を受けております。今回は、天王寺舞楽の歴史、発展した経緯、及び舞楽についての話を交えて3曲ほど舞楽を行います。河内音頭については、幾多の変遷を経て、今日に至っており、特に時代の流れと演者の感性が、大きく作用し独自の創造を生みだしていくおもしろさは、まさに河内音頭は、生まれている！と言わねばなりません。河内に住む人々が、土地に伝わる文化である河内音頭を守り、次の時代に伝えていく・・・そういう方々に主演してもらい、唄い踊ります。



10/19 @ 午後2時始 大阪狭山市 SAYAKAホール(小) ☎0723-65-8700

【歴史講演】

「子守唄が代弁する河内地方の女性史」

作詞家、(財)大阪狭山市文化振興事業団理事 もず唱平
証言者 松房由紀・酒野晶子
むかし、河内地方は木綿の産地として有名でした。その木綿を織るのは女性の仕事。また一方で、河内の女性は大阪の大家に出向いて、乳母として守として働き、船場の「ええし」のぼんぼんやいとんを育てたとも伝えられています。学生時代に子守唄を発掘し卒業論文にまで仕上げた松房由紀さん。河内木綿を今に伝える酒野晶子さんを証言者として、河内地方の文化に造詣の深い作詞家のもず唱平氏が河内地方の女性史を検証します。



【パフォーマンス】

狭山伝説に芽吹く創作パフォーマンス「五ツの石」

振付・舞踊：フラメンコ舞踊家 山内恵子
台本・作曲・語り・演奏：コンガ奏者 古谷哲也
オカリナ奏者 井上サトル
「五ツの石」の伝説は全国的に散在しています。村境に石をたてて外部からの悪霊を防いだり、旅人の道標として残るもの、縁結び、子宝安産、子供の神、と地域により様々です。狭山では子宝安産の神。「五ツの石（五体）を並べて祈ると子宝に恵まれるという・・・」パークションの第一人者古谷哲也が作詞作曲、山内恵子（フラメンコ舞踊家）の振付・舞踊、オカリナ奏者井上サトルによる創作パフォーマンスとしてお送りします。
台本協力：中井明子（大阪狭山市歌作詞者）



主催/南河内文化会館連絡協議会・南河内地域広域行政推進協議会

リレーイベント

南河内歴史発見ショウ

HALL MAP

8/31 SUN. 藤井寺市市民総合会館
☎0729-39-7020

市民総合会館(本館、別館) 藤井寺小 至八尾 至八尾・高槻 至河内長野 和歌山 藤井寺市役所 藤井寺中 藤井寺工芸 近鉄南大阪線 藤井寺駅 至河内大板 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西

9/7 SUN. 羽曳野市市民会館
☎0729-58-2311

市民会館 古小学校 至八尾 至柏原 至阿倍野橋 N 至河内長野 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西

9/28 SUN. 美原町役場
☎0723-61-1881

美原町役場 美原町立中央公民館 船戸下 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西

9/21 SUN. 太子町立万葉ホール
☎0721-98-0300

万葉ホール 太子町立万葉ホール 府道美原太子橋 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西 至河内大板南 至河内大板北 至河内大板東 至河内大板西

9/14 SUN. ラブリーホール
☎0721-56-6100

ラブリーホール 南海高野線 近鉄長野線「河内長野」駅下車 徒歩7分

10/5 SUN. すばるホール
☎0721-25-0222

すばるホール 近鉄長野線 河内長野駅下車 徒歩7分

10/12 SUN. 松原市文化会館
☎0723-36-5755

文化会館 近鉄南大阪線 河内松原駅下車 徒歩15分 高見の里駅下車 徒歩7分

10/19 SUN. SAYAKAホール
☎0723-65-8700

SAYAKAホール 近鉄南大阪線 河内松原駅下車 徒歩15分 高見の里駅下車 徒歩7分

PERFORMANCE 創作パフォーマンス

狭山伝説に芽吹く創作パフォーマンス **五つの石**

狭山に伝わる「賽の石」の伝説をもとに、コガ奏者・古谷哲也が物語を創作。ラテン・パーカッションの弾き語りと創作舞踊で綴るオリジナルパフォーマンス。

五つの石(五体)を並べて折ると子宝に恵まれるという…女の苦悩と男の後悔が胸を打つ

CAST
■ 振付・舞踊/山内恵子(フラメンコ舞踊家)
■ 台本・作曲・語り・演奏/古谷哲也(コガ奏者)
■ 演奏/井上サトル(オカリナ奏者) 他

リレーイベント 南河内歴史発見ショウ **SAYAKA**ホール(小)

日程/10月19日(日)
開場/1:30 開演/2:00
料金/500円(自由席・税込)

歴史講演 →
← 創作パフォーマンス

チケットのお求め・お問合せは
「SAYAKAホール」へ(火曜日は休館) ☎0723-65-8700

■ 受付時間 AM10:00~PM5:00

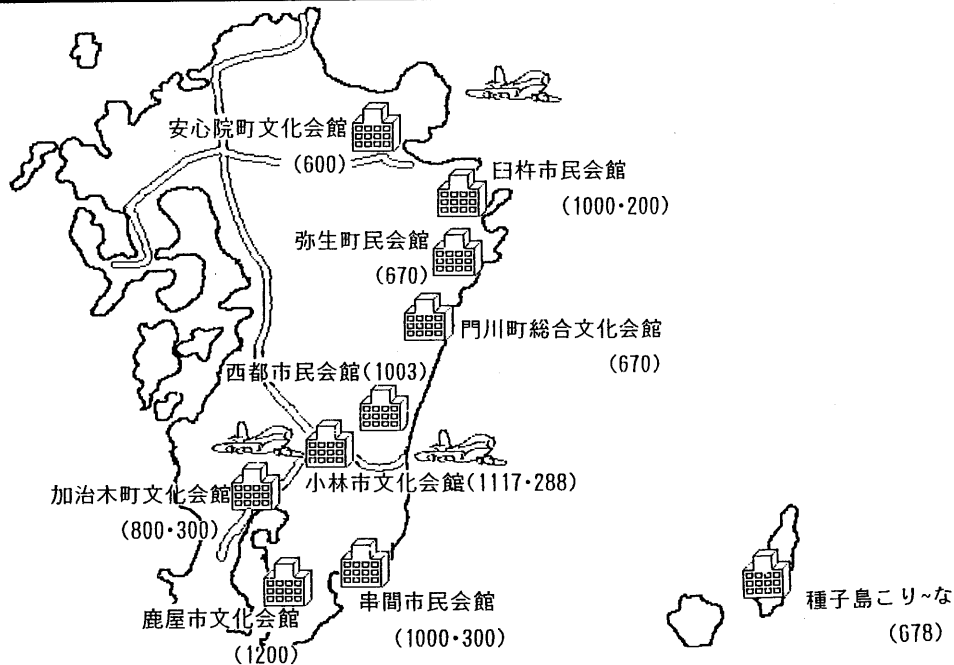
歴史講演 LECTURE

『子守唄が代弁する河内地方の女性史』

昔、河内は木綿の産地。その木綿を織るのは河内女の仕事、また、大阪の大家に出向いて、乳母として子守として働き、船場の「ええし」のぼんぼんやいとんを育てたとも……子守唄を発掘してきた松房由紀さん、河内木綿を今に伝える酒野晶子さんを証言者として、河内文化に造詣の深い作詞家、もず唱平氏が河内地方の女性史を検証します。

もず唱平(作詞家・中大阪狭山市文化振興事業(理事))
【花街の母】全田たつえ
【大阪精話~うちと一編になれんか~】中村実律子
他、多数を手懸ける

C-WAVE ネットワーク協議会



設立年	平成5年4月
地域	東九州（大分県、宮崎県、鹿児島県）
ジャンル	特に限定なし
設立の目的	<p>地方のホールにおいては、地域コミュニティ・地域文化の中核としての役割を果たすべく住民参加の文化振興を目指しつつも、施設規模や人口面での制約、交通事情等のハンディにより、多大な費用負担がネックとなって事業企画が制限される。地方におけるこれからの文化振興のため、ネットワーク化による公演の低料金化、地方特色の重視・伝統芸能の支援等を行なうことで、各文化施設の重要性を高めたい。</p> <p>東九州各県に点在する中規模以下のホールが小さな力を寄せ合い、文化(Culture)を創造(Creation)し、伝達(Communication)する、うねる波(Wave)となるために、「C-WAVE ネットワーク協議会」を設立する。 (平成5年4月:設立趣意書より抜粋)</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のステージづくりのための定例会議(年4回以上) ● 総会及び研究会の開催 ● 公立文化施設等の先進地視察 ● 自主文化事業企画のための資料の収集及び情報交換 ● 関係機関に対する要望等 ● その他、C-WAVEの目的を達成するために必要な事業
加盟機関数	10団体
加盟機関属性	<p>1) 国・都道府県・市町村立の公立文化施設(現状では全て市町村立)</p> <p>2) 音楽・演劇・舞踊・映画、その他文化的行事のための設備を有する施設 賛助会員) C-WAVEの趣旨に賛同し、会員相互において等しくその資格を有すると認められる個人若しくは行政、民間出身者</p>
活動経費	年会費 各館 10,000 円、 公演経費 各館負担。九州までの交通費を均等分担
公的助成	各館で個別に県内の助成金を申請。C-WAVEとしては(財)地域創造の助成金。
事務局	財団法人門川ふるさと文化財団 宮崎県東臼杵郡門川町南町 1140-8, Tel: 0982-63-0002

C-WAVE ネットワーク協議会

ヒアリング記録

1997/11/06

門川町総合文化会館

財団法人 門川ふるさと文化財団 | 事務局長 河野真一氏, 柏田伸博氏, 黒木 真氏

門川町総合文化会館(財団法人門川ふるさと文化財団)の概要

- 門川町総合文化会館は、平成3年4月に開館。ふるさと創世1億円事業の一環として、基本財産3,000万円の財団法人門川ふるさと文化財団を設立(平成2年11月16日)。100%に近い運営資金を門川町の一般財源から受けている。
 - 設立の目的は「宮崎県北部広域市町村圏における文化とスポーツの振興をはかり、健康で豊かな住みよい地域づくりに寄与すること」
 - 同財団では、門川町総合文化会館の運営のほか、海浜総合公園、勤労者体育センター、勤労者総合福祉センター等雇用促進事業団施設の管理運営も行なっている。
 - 670席のキャパシティを常に一杯にするのは、人口19,000人の町では容易ではない。
 - 町に対しては、最低15年計画で運営をしている部分の理解を求めている。最初の5年で運営事務を模索し、次の5年でプロパー職員の育成、最後の5年で町民の文化拠点として位置づけるというもの。
 - 自主事業は現在、年間6本から10本。「招聘(鑑賞)型」、「支援(育成)型」、「制作(創作)型」の三つの視点で主催事業を大別し、近隣会館との差別化をはかり、多岐にわたるジャンルで特色あるプログラムの策定に努めている。
 - 平成9年度予算は、約1億円。主な収入源は町からの事業委託金とチケット収入からなる事業収入9,364万円(うち委託金8,700万円)。支出の主要項目は、①管理費に約3,500万円、②委託事業費約4,780万円、③自主事業費1,600万円。
-

1. ネットワーク活動の概要

(1) ネットワーク活動の経緯・目的

- 平成3年にイルカのコンサートを実施。東京:宮崎の物価指数を100:73と仮定し、このレベルにチケット単価を設定。400万円の出演料を3,000円のチケット670席では、5割しか回収できない。
- “九州”という距離的な条件から、交通費が出演料の倍以上もかかってしまうことが大きく、交通費をまず削減しなければならない、という課題に直面した。
- 当初は、とにかく状況を知りたいと東京に行っても、事業予算の上限が840万円で客席670席では、音楽事務所でも門前払いだった。平成5年くらいまでは、情報収集だけでも苦しい状況で、開館から3~5年を経過しても、内部のホール運営事務も安定していなかった。
- 当初は個人的ネットワークをたよりに周辺地域のホールにも声を掛け、情報収集するなかで勉強を始めた。ある時間を経過することで、情報も得られるようになり、アーティスト

やプロデューサーなどの活動が、本音で話すことで見え始めた。若いアーティストの話を知ると、出演料だけでは日々の生活も安定していないことがわかり、才能に対する対価は払うべき、公演料は値切らない、という考え方に立った。

- 平成5年当初は、西都市民会館、弥生町民会館、門川町総合文化会館がネットワークを組み、地域活性化センターの「地域のステージづくり事業」の助成事業対象となった(3~5館がネットワークすることで、事業費の1/2を助成するもの。地域に根づいている事業であれば、既に制作された公演でも助成対象となった。
- 近隣ホールに声をかけ、きっかけは上記の3館だったが、最終的には6館がネットワークを組んだ。

(2) 具体的な活動内容

- 平成4年4月:他館と相談してC-WAVEという活動名称を付与。大分県、宮崎県内の6館で始まった。
- ホール間で70^キ。四方のホールを求め、公文協の地図上に候補となるホールをプロットした。当時、東九州軸構想の中で、活性化、ソフト部分の足並みを揃えることが話題になっていた。そのようななか、①ホール同士の距離が保たれること、②自主事業を熱心にやっていると、③歴史的遺産があるところ、④過疎的現象を多く抱えているところなどを目処に参加ホールを選んだ。
- 現在もC-WAVEへの参加を希望するホールはあるが、閉鎖的という意味ではなく、事務局としてはこのネットワーク活動そのものの基盤をもう少し確立したいという気持ちもあり、参加ホールは限定している。
- C-WAVE以外にも、鹿児島島のホールが離島に出張(出前)公演に行ったり、熊本県のネットワーク、北九州のネットワークなど、九州地方全体でさまざまなネットワーク活動がある。
- C-WAVEに参加している各ホール間の移動距離は1時間10分から1時間半程度。劇団や楽団がホール間を移動する際にも、ホール一つおきで巡回したとしても3時間あれば移動できる。
- C-WAVEの定例会は年に4回程度。それ以外に宮崎県内ホール同士のミーティングを行なう。その他、事業内容によって必要であれば随時打合わせをする。
- 賛助会員として、宮崎日日新聞社、大分合同新聞社、南日本新聞社が名を連ねている。地方都市では、地元の新聞社が地域の文化事業を永年やってきており、近年になって設立された公共ホールよりも実績やノウハウを持っている。また、メディアとしての力もあるし、情報収集力もある。
- C-WAVEには特に宮崎日日新聞の事業部が興味を持ってきて、当初はオブザーバーとしての参加だったが、後に“賛助会員”という位置づけになった。ミーティングにも宮崎日日新聞社はほぼ毎回参加してくれていた。
- C-WAVEの事業には、①統一事業と②協働事業がある。①統一事業は、できればC-WAVEに参加している10館全体でやる事業を年間1本はやりましょう、というもの。広報、メディアの対応など将来的には各館の役割分担ができればと考えている事業もある。
- ②の協働事業は、県単位や座席規模などの条件があったホール同士、2館以上で実

施する事業である。

- 平成 7 年度の①統一事業として、東京カンマーアンサンブルによる「楽しい音楽会」を実施した。これには、音楽会に未就学児を受け容れることと九州の民謡に基づいた曲目とすることで、観客層をどれだけ拡大できるかというねらいがあった。民謡＋西洋楽器というこのプログラムを継続することで、クラシックファンの拡大に繋げたい。各演奏家からチラシにメッセージをもらうなどして、演奏家に対しても親しみをもってもらえるような工夫をした。

(3) 参加各ホールの役割分担、運営方法

- 具体的な共同企画・制作のプロセスは概ね次のとおり。通年、各館ごとに情報収集・整理をするなか、4月から10月の定例会で情報の選定(統一・共同企画事業の具体的提案)、11月頃に上京して情報収集・確認、出演団体や音楽事務所、プロダクション等とのコンタクトの後、12月に予算要求、2月の定例会で事業について契約、運営等の細部を協議し、3月の議会へ提案する(年間事業計画決定)。
- 事業の調整は、6月くらいに提案を受け、8月頃に整理して再度提案を受ける。
- 制作にかかわる音楽事務所やアーティストとの交渉についても、ホール毎に役割を分担して行なっている。
- 民業と公文協の仕事を、どのように切り分ければ良いかについて、常に考えている。また、教育的効果や芸術的効果のみを常に優先して考えていると、難しい面もある。
- 企画の決定については、情報をあまねく広く収集し、隅々まで把握した段階で態度決定をしたいと思っているので、情報収集には力を入れている。
- 事務局は、C-WAVE 設立以来、門川町総合文化会館が行なっている。ただし、定例会議は持ちまわりにしており、その会議の運営は会場となるホールが担当している。

(4) 民間ホールとの連携

- 宮崎市内には、たちばな劇場、宮崎女子高校の大坪記念ホール(貸しホール)、シーガイアのホール(約 5,000 席。県が 850 億円を出資し、民間運営)という 3 つの民間ホールがある。
- 公立ホールとして、民業を圧迫したくない、地域住民の活動の場、発表の場は守りたい、という基本的なスタンスはある。

(5) 経費負担および公的支援の活用状況

- 出演料は各々のホールで負担。交通費については、九州までの交通費を参加ホールで均等分割し、九州内の移動については、自ホールの次に公演を行なう会場(ホール)までの交通費を負担。宿泊費、食事については、自ホールでの公演に関わる部分について負担する、という形。
- 経費負担については、例えばチラシを合同で発行するだけでも、単独で印刷する場合の半額にはなる。
- 会費は、年額 12,000 円/各館。通信費や参加ホールの職員を対象にした C-WAVE の研修(年 2 回)等の際にかかる外部講師の謝金・交通費などに使われている。
- 公的支援は、各県単位の助成や特別事業(大分県の国民文化祭など)などからめて、各館独自に申請している。
- 東京カンマーアンサンブルの場合、大分県は県の事業としてこの公演を実施したため、

東京カンマーアンサンブル協会は大分県と契約をしている。県内の各ホールは100万円の公演料を負担し、その事業を実施した。宮崎県内のホールは、各ホール個別に東京カンマーアンサンブル協会と契約をしている。

- ネットワークを組むことで、契約先の音楽事務所や芸術団体も、特別な出演料でのオファーをしてくれる。3会場の場合、5会場の場合、7会場の場合等、複数の見積もりを出してくれるケースもある。
- ネットワーク活動の背景には、「何とかして良い公演を少しでも安く提供したい」という経済的な理由があった。また、「楽しい音楽会」を今後さらに地元扎根させたいという思いもある。10月23日から11月2日まで、ヴィオラ等の演奏を地元の出演者の指導も兼ねて、ノーギャラで離島や分校、養護施設など11会場で実施してもらうことになっている。指導とコンサートという形式。これに対してC-WAVEは現地交通費を負担している。
- C-WAVE全体として受けている公的支援は、(財)地域創造の助成金のみ。
- 企業メセナという意味では、三井海上火災保険が九州内の現地交通費を負担してくれたこともある。「地域住民のためのコンサート」として、例えば昨年、安心院町に来た公演を門川町に呼ぶための交通費を負担してくれた。

2. ネットワーク活動の効果、問題点・課題等

(1) ネットワーク活動による効果

- 各々のホール職員が、「ホールというのは地域の活性化につながるのだ」ということを意識しはじめていると思う。「招聘型」「支援型」「創作型」など多様な公演の方向があるなかで、とにかく“何か考えようではないか”という意識になってきた。
- 現状と課題を分析しながら、東九州の10館が相互に見つめ合う貴重な機会になっていると思う。また、東九州の歴史についても再考する機会になっている。
- 今後は、各C-WAVE参加館が、各々所属する市町村に文化政策に対する明確なビジョンがないので、専門家の設置も含めて啓蒙・問題提起していく役割を担う必要がある。
- プロモーターやプロデューサーに定例会に参加してもらって実際に話しを聞く機会を設けることもある。吉本興業の制作部長に来てもらった時には、C-WAVEにあった公演を考えてくれるような話に発展し、地元の声をソフトに反映することができたと思っている。
- 単独ホールで企画内容を検討していると客観的な判断は難しいが、C-WAVEのように定例会で複数で議論できる場があれば、自分自身を客観視することもでき、“甘い話”もシビアに判断することもできる。
- 公立ホールを食い物にしたり、出演者を消費物として考えているような人には、会議に参加してもらわなくても良い。真剣に地方の芸術について議論してもらえる人だけで良いと考えている。何年かの活動を経て、マスコミ関係者や専門家とも自然発生的な交流が始まり、ノウハウも教えてくれるようになった。

(2) ネットワーク活動の問題点・課題

- 職員の異動は、公立ホールにとっては解決されることのない問題だが、逆に、“市町村役場内でホール運営に関する理解者が増える”というポジティブな考え方をしている。文化会館は音楽振興のために必要なのだ、というコンセンサスを得る必要がある。
- ソフト面の課題としては、やはり企画内容。各ホールには山のような公演案内が来る。見れば見ただけ上演したくなってしまふような状況のなかで、プログラムを決め込む手法、選択する場合の手法が求められている。
- 公共ホールとしての一番のネックは事業費を使いきらなければならないことだった。予算を消化しないと次年度から予算が削減されるという恐れから、公共事業は予算を使い切るのが鉄則のようなところもある。しかし、われわれは、ネットワークを組むことで生じる事業費削減効果により予算が余った場合には、無理して中途半端な事業を行うことはせず、執行残としている。
- その他の問題点としては、C-WAVE参加ホール間の事業調整に時間がかかること。会議では個人の主観も入るし、所属する市町村に長期的なビジョンがないところで担当者が異動した場合“口約束”で進んでいたことが引き継がれないこともある。
- 職員の異動の問題については、根本的な解決は難しいものの、当然異動はあるものと思って受け容れ、後任を探しながら事業をすすめている。
- 職員の悩みとしては、民業の圧迫を避けたいという思いは強くある。そうすると、貸し館をしない分、自主事業をやらなければならないが、これも容易なことではない。
- クラシックなど芸術性の高い公演に必ずしも観客が入るとは限らない。演目の選定をクラシックにしておけば無難だ、ということも、あまりに安易な考えである。芸術性と大衆性の融合点を模索したいと考えている。コンサートホールが真に開かれた存在になり、学校や離島など、ホールの外へ出ていくことが求められていると思う。

以上

C-WAVE NETWORK自主事業(統一・協働企画)公演実績表

		(休館日公演館発生)金額に繰越されています					
(県名)	統一事業	統一事業	協働事業	協働事業	協働事業	協働事業	統一事業
会館名	東京キッドクラブ「夢の湖」 270万(280万)円	劇団ひと里「女相模 〜徳川の川/橋筋」 272万(300万)円	カスガホーファミリー コンサート 45万(75万)円	東洋大学 私学協会 272万(300万)円	人形劇 文楽 300万(350万)円	ファミリーミュージカル 「大原の水さなほ」 447万(622万)円	東京キッドクラブ 「楽しい音楽」 178万(231万)円
公演費	270万(280万)円	272万(300万)円	45万(75万)円	272万(300万)円	300万(350万)円	447万(622万)円	178万(231万)円
(大分県)							
安心院町文化会館		H6. 7.16(土)	H6. 8.20(土)		H7. 2.27(月)	H7. 8. 9(木)	H7.10.30(月)
白杵市民会館	H5. 9.17(金)		H6. 8.24(木)				H7.10.29(日)
弥生町民会館	H5. 9.18(日)	H6. 7.15(金)			H7. 2.28(火)		
(宮崎県)							
門川町総合文化会館	H5. 9.19(日)	H6. 7.14(木)	H6. 8.18(木)	H6.10.29(土)	H7. 3. 1(木)	H7. 8.11(金)	H7.10.21(土)
西都市民会館	H5. 9.21(月)	H6. 7.12(火)				H7. 8.12(土)	H7.10.22(日)
小林市文化会館	H5. 9.22(火)	H6. 7.10(日)	H6. 8.17(木)	H6.10.28(金)			H7.10.24(火)
串間市民会館	H5. 9.24(金)	H6. 7.11(月)					H7.10.28(土)
(鹿児島県)							
鹿屋市文化会館						H7. 8.13(日)	H7.10.27(金)
加治木町文化会館							H7.10.25(木)
種子島こりーな							H7.10.19(木)
その他の主催団体				宮崎日報社 東京首大宮崎県人会		8/8(火) 福岡県(カトリックホール) 鹿児島文化会館	10/18(木) 福岡県(コスモイト行演) 行演文化ホール

道路九州全図

WAVEが贈る 東京カンマーアンサンブル

楽しい音楽会



企画: C-WAVEネットワーク、東京アンサンブル協会
九州民謡によるファンタジー初公演

プログラム

夜のセレナード — 第1楽章
童謡集 — ゆりかご・七の子ほか
ティンズ・メドレー — 童に願いをほか
ピッツィカート・ホルカ
もみじ
そなりのドトロ
四季より「春」(独奏: 双紙正壽・山田慶一)
九州民謡によるファンタジー
荒城の月による「幻想的変奏」
赤とんぼ
早春譜
花
弦楽のためのセレナード 八長調

モーツァルト
編曲: 松山邦子
シコトウラス兄弟
みんなで歌おう
編曲: 丹羽道子
ブレイク・アルティ
江藤誠仁右衛門
編曲: 松山邦子
中田章(編曲: 江藤誠仁右衛門)
薄藤太郎
チャイコフスキー

宝くじ助成事業

日		程	
10/18 例	コスメイト行橋	10/25 例	加治木町福祉センター
10/19 例	種子島こり〜な	10/27 例	鹿屋市文化会館
10/21 例	門川町総合文化会館	10/28 例	串間市文化会館
10/22 例	西都市民会館	10/29 例	臼杵市民会館大ホール
10/24 例	小林市文化会館	10/30 例	安心院町文化会館

10/21(土) 門川総合文化会館

■開場 18:30 ■開演 19:00

■入場料金 (全席指定)

一般指定.....2,000円(当日200円増)

ファミリー.....1,000円(当日200円増)

■入場券発売所
●セレクト ●くろぎ精肉店 ●大森酒店 ●松枝酒店 ●スーパー平城
●ガフワ時計店 ●あさひ・ひまわり文化財団 ●延岡総合文化センター
●西村延岡店 ●旭サーブ本店 ●日向市文化交流センター
●ASTY 日向郡豊 ●小そでや ほか
■入場券発売日 8月27日(日) AM10:00

■主催、お問合わせ先 財団法人ふるさと文化財団 ☎0982-63-0002

事業企画の工夫について

「C-WAVEが贈るクリスマス楽しい音楽会」を例にして

1. ホールビジョンの確認～ねらいの明確化のために

- (1) 中央の優れた舞台芸術を低廉で鑑賞する機会を提供する。
- (2) 家族のふれあいを深めるとともに、音楽愛好者の底辺拡大をめざしながら、地域の生活に豊かさを創出するような住民を対象とした演奏会とする。
未就学児のホール入場を試し、幼児期からの音楽体験づくりから、情操豊かな青少年の健全育成と公共マナーの向上につなげる。

2. 企画の初期段階として

- (1) C-WAVE ネットワーク協議会(以下 [C-WAVE])でクラシックコンサート実施の可能性確認
- (2) 地域への理解を有する演奏家と直接に企画を話し合い、具体的内容提案。
- (3) C-WAVE加盟館のうち7館で実施し、ネットワーク効果の最大活用を図る。

3. 企画における具体的工夫

- (1) 「九州から発信する公演」として、実力ある地元有缘のある演奏家を選定した。
- (2) ディズニーからバッハまで、演奏プログラムに幅をもたせ、子どもやクラシックの入門者にも親しみやすく楽しめる内容にした。
- (3) C-WAVEと東京アンサンブル協会の共同企画で、作曲家江藤誠仁右衛門氏により作曲されたオリジナル曲「九州民謡によるファンタジー」を再演する。
- (4) 入場年齢制限を緩和すべく演奏家と相談し、未就学児(4歳以上)入場を試行。
- (5) 実施7館すべてが住民参加プログラムを盛り込み、地元コーラスの出演を実現。

4. 運営上の具体的工夫

- (1) 料金、開演時刻等を統一し、TVスポット等の共同宣伝の効率化、低廉化を図る。
- (2) ポスター等制作では、タイトルイメージを第1としながら、演奏家のプロフィールにも試みとして趣味などを盛り込み、実施7館で共同制作し経費削減に努めた。
- (3) 実施7館の職員が可能な限り分業し、効率的に作業を行う。
- (4) 宮崎県内3館については宮崎日日新聞社(C-WAVE賛助会員)を名義主催として、地元最大手新聞社の社告をはじめ紙面広告を展開し、宣伝効率を高める。

5. 事業効果として

- (1) 本事業は2回目であり、演奏家の地域理解も、地域住民の音楽及び演奏家理解も相互に深まることが期待され、単発事業にはない効果が期待される。
- (2) 住民参加は、ホール理解と、ホールは自らのモノという認識の高揚を促進する。
- (3) ネットワークによる事業は、事業の企画運営面でのさまざまなアイデアや日常的な会館管理運営の学びあいの場でもあり、職員の資質向上の効果は大きい。
- (4) 新聞社との日常的交流から「宮日美展巡回展」などの新しい事業が生まれている。

6. 招聘型事業企画の問題点～悩みとして

- (1) 国内外アーティストの公演スケジュールが11月前後に集中しがちであり、継続したい事業と新しく取り組みたい事業等の調整が困難な場合が多い。
- (2) 主演者変更が発生。地域住民をはじめとするさまざまな信頼関係に悪影響を及ぼすことになった。理由の如何を問わず容認されることではないが、契約の相手側の信用度の把握が今後の課題となっている。

事業実施までの段取りについて

1. ホールビジョンの確認

- ・地域事情、各種文化振興ビジョン、会館特性等を踏まえたホールビジョンの確認
- ・C-WAVEネットワーク協議会等でのホールビジョンの研究
→加盟各館のビジョンを踏まえた上での管理運営、事業企画のノウハウ検討。

2.-① 情報の収集整理

- ・送付情報のジャンル別整理と内容の確認、来訪劇団やプロモーター等(以下「劇団等」)からの情報聴取
- ・県北文化団体連絡会での情報交換→近隣施設の方針等の聴取や情報補充の場として活用。
- ・C-WAVEネットワーク協議会での情報交換→各会館からの情報交換とネットワーク可能性の検討。
- ・劇団等やメセナーへの直接訪問による情報の収集→C-WAVEネットワーク協議会での協働情報収集で効率化を図る。

一② 情報の選択

- ・前回事業までのアンケート調査結果、住民の声等の参照(ニーズとシーズの検討)
- ・事業ジャンルのバランス検討→会館の年間、複数年間でのバランス、県北地域での年間バランス等への配慮。
- ・劇団等の企画内容、経費等、公演実績、経営状況の検討→キャストを含む企画内容や経費見積もりの評価とともに、劇団等の信用度を重視。
- ・C-WAVEネットワークへの統一事業、協働事業の具体的提案

一③ 事務局内検討

- ・事業の抽出および位置づけ、運営形態等の検討
- ・事業経費等の検討と事業計画案作成→県北文化団体連絡会やC-WAVEネットワーク協議会への計画案の相互報告。とくにC-WAVEネットワークによる事業については契約、運営等の細部協議。

3. 予算要求

4. 理事会への提案

5. 年間事業計画決定

6. 事業実施

C-WAVEネットワーク協議会設立と活動経過

C-WAVEネットワーク加盟館

県名	市町等	人口	施設	キャパ	施設住所
大分県	安心院町	9,001	安心院町文化会館	600	大分県宇佐郡安心院町大字下毛 2130
〃	臼杵市	36,800	臼杵市民会館	1,000	大分県臼杵市大字臼杵 72-83
〃	弥生町	7,305	弥生町民会館	670	大分県南海部郡弥生町大字上小倉 1157-2
宮崎県	門川ふるさと文化財団	19,362	門川町総合文化会館	670	宮崎県東臼杵郡門川町大字門川尾末 1140-8
〃	西都市	36,363	西都市民会館	1,003	宮崎県西都市大字右松 176
〃	小林市	41,114	小林市文化会館	1,117	宮崎県小林市大字野 1650
〃	串間市	26,487	串間市民会館	1,000	宮崎県串間市大字西方 6524-58
鹿児島県	鹿屋市	78,905	鹿屋市文化会館	1,200	鹿児島県鹿屋市北田町 11-107
〃	加治木町	22,856	加音ホール	800	鹿児島県始良郡加治木町 253
〃	中種子町	10,302	種子島こりーな	678	鹿児島県織毛郡中種子町野間 6410-1
合計		288,495		8,738	
宮崎日日新聞社					宮崎市高千穂通 1-1-33
大分合同新聞社					大分市府内町 3-9-15
南日本新聞社					鹿児島市易居町1番2号

名称 C-WAVE(シー・ウェーブ)

Culture	文化
Creation	創造
Communication	伝達
WAVE	うねる波

設立と活動経過

平成3年12月～平成4年4月

施設相互訪問(設立に向けての調整)

(門川町総合文化会館、串間市民会館、西都市民会館、弥生町民会館、高山町文化会館、宇佐市民会館)

平成4年4月24日:第1回地域のステージづくり事業推進連絡会

会場 門川町総合文化会館
出席市町 宮崎県西都市/串間市/門川ふるさと文化財団
大分県 弥生町

会として発足を確認

他市町の加入を承認 宮崎県小林市/大分県臼杵市

会の活動についての確認

- (1) 自主文化事業の共同企画について
- (2) 合同の研修(自主事業、管理関係)
- (3) 地域文化活動の共同支援について
- (4) 定期連絡会の開催、協議について

平成4年9月9日・10日:第2回地域のステージづくり事業推進連絡会

会場 西都市民会館
出席市町 宮崎県|西都市/串間市/門川町ふるさと文化財

団/小林市

大分県 弥生町/臼杵市

オブザーバー 宮崎日日新聞社

- ・会の名称を“C-WAVE”と決定
- ・平成5年度共同企画をミュージカルと決定し演目を選定することを確認
- ・(出演料 3,000,000 円以内)
- ・宮崎日日新聞社は南九州管内新聞社連絡会(大分、宮崎、鹿児島、熊本各県)へ参画を呼びかける旨確認。
- ・平成4年9月19日 宮崎県えびの市民会館訪問
地域のステージづくりについて合同研修
- ・平成4年9月30日 宮崎日日新聞社、大分合同新聞社訪問
南九州管内新聞社連絡会の参画方法確認
- ・平成4年10月15日 大分県臼杵市民会館訪問

平成4年11月10日・11日:第3回定例会 C-WAVEネットワーク串間会議

会 場 串間市民会館

- ・共同事業演目、劇団の検討(各市町より提案)

日程の調整

- ・劇団との調整方法の検討
- ・報道機関の役割検討
- ・C-WAVE移動事務局の検討及び決定
(事務局の業務)
- (1) 各館との事務連絡、調整
- (2) 日程の調整
- (3) 劇団との交渉方法の決定
- (4) その他の関連事務調整

平成4年12月16日・17日:第4回定例会 C-WAVE ネットワーク弥生会議

会 場 弥生町民会館

- ・公演目の決定 ミュージカル「夢の湖」

劇団の決定 東京キッドブラザース

- ・公演時期 9月下旬で劇団と調整
- ・公演費用 300~400万円(宣材費含)
- ・劇団との交渉協議について
- ・今後の会の活動について

平成5年2月1日・2日:第5回定例会 C-WAVE ネットワーク弥生会議

会 場 弥生町民会館

劇団関係者と詳細について協議

- ・日程、経費、公演演目等/公演後の交換会について

平成5年度の活動について

- ・事業研修会:場所 津久見市民会館
- ・「東京キッドブラザース」の活動について視察

平成5年5月31日(月),6月1日(火):第6回定例会 C-WAVE ネットワーク西都会議

会 場 西都市民会館

- ・各館の状況報告

宮崎日日新聞社文化事業報告/各館の状況報告

- ・東京キッドブラザース公演について(契約について/宣伝、広報活動について)
- ・冠公演等の実施について(企業メセナーを含む)
- ・ニューミュージック等の公演
- ・移動美術展の開催について
- ・施設のメンテナンス研修会(メーカー等による再教育)

平成5年7月15・16日:大分県竹田市、九重町、安心院町文化会館訪問

平成5年8月18日(水)19日(木):第7回定例会 C-WAVE ネットワーク臼杵会議

会 場 臼杵市民会館

- ・安心院文化会館紹介及びC-WAVE加盟を満場一致で承認
- ・各館の状況報告
- ・宮崎日日新聞社文化事業報告/各館の状況報告
- ・C-WAVE規約の検討～協賛会員等一部を見直して次回再検討
- ・東京キッドブラザース公演について
- ・公演を1か月前にして各館の現状追い込み宣伝、広報活動について
- ・キャンペーン等実施について
- ・平成6年度自主事業企画の提案
- ・宮崎日日新聞社及び各館の提案を持ち帰り次回再検討
- ・役員選出～別紙役員構成表参照

平成5年10月20日(水)21日(木):第8回定例会 C-WAVE ネットワーク小林会議

会 場 小林市民会館

- ・ステージづくり事業について(a 精算について/b 反省)
- ・来年度事業について
- ・その他

平成6年1月31日(月)2月1日(火):第9回定例会 C-WAVE ネットワーク安心院会議

会 場 安心院町文化会館

- ・平成6年度 統一企画について
- 「女相撲」公演に関して宣材(ポスター・チラシ等)の共同製作を検討。
- ・平成6年度 自主企画事業について
- 各館より企画を報告。今後も相互調整していくことで了承。
- ・その他 ①クラシック愛好家を増やすためには、どのような対策が必要か?

平成6年4月19日(月)20日(火):第10回定例会 C-WAVE ネットワーク串間会議

会 場 串間市民会館

- ・平成6年度 統一企画について
- ・平成6年度 自主企画事業について

平成6年6月17日(金)18日(土):第11回定例会 C-WAVE ネットワーク門川会議

会 場 門川町総合文化会館

総 会

- ・1号議案 平成5年度事業報告について
- ・2号議案 平成5年度決算報告について
- ・3号議案 平成6年度事業計画(案)について
- ・4号議案 平成6年度会計予算(案)について
- ・5号議案 平成5/6年度役員について

定例会

- ・平成6年度 統一企画事業について
- ・C-WAVEが贈る 劇団みなと座 『女相撲～憧れのハワイ場所』
- ・平成6年度 協働企画事業について
 - ガスタガー・ファミリーコンサート(小林市・門川町・安心院町・臼杵市)
 - アルバートマックニール&ジュビリーシンガース(門川町・安心院町)
 - 東京音楽大学ガムラン演奏会 (小林市・門川町・共催 宮崎日日新聞社)
 - 国指定重要無形文化財 文楽公演 (門川町・安心院町・弥生町)
- ・平成7年度 統一、協働企画事業について
 - 地域のステージづくり事業の提案
 - 現地研究、調査ならびに出演交渉のための出張日程の調整について
 - その他

平成6年9月1日(金)2日(土):第12回定例会 C-WAVE ネットワーク弥生会議

会 場 弥生町民会館

協議

- ・1号議案 平成6年度統一・協働企画自主文化事業について
 - 統一企画「地域のステージづくり事業」
 - 劇団みなと座 女相撲～憧れのハワイ場所について反省
 - 協働企画 ガスタガーファミリーコンサートについて反省
- ・2号議案 平成7年度統一・協働企画自主文化事業について
 - 門川～未就学児向けクラシックコンサート・ミュージカル
 - 西都～大草原の小さな家・ニューミュージック・劇団四季
 - 串間～クラシック・ニューミュージック(中村雅俊など)
 - 臼杵～音楽座・ニューミュージック
- ・3号議案 平成7年度統一・協働企画事業にかかる現地研修、調査並びに出演交渉のための出張日程調整について
 - 11月8日(火)～11月11日(金)に決定
- ・4号議案 C-WAVEネットワーク協議会加入申込み館について
 - 鹿児島県鹿屋市文化会館を承認
- ・5号議案 その他

平成6年12月1日(木)2日(金):第13回定例会 C-WAVEネットワーク西都会議

会 場 西都市民会館

協議

- ・1号議案 平成6年度協働企画自主文化事業について
 - 協働企画事業の実施報告(ガムラン音楽会ほか)
- ・2号議案 平成7年度統一企画自主文化事業について
 - 地域のステージづくり事業の選定(木野雅之と東京カンマーアンサンブル)
 - a ディズニーキャラクター使用の検討
 - c 未就学児童の入場について
- ・3号議案 平成7年度協働企画自主文化事業について
 - (バンダイスーパーミュージカル 大草原の小さな家)
- ・4号議案 出演交渉の出張報告について

平成7年3月6日(月)7日(火):第14回定例会 C-WAVE ネットワーク臼杵会議

会 場 白杵市民会館

協議

- ・1号議案 平成7年度統一・協働企画自主文化事業について
統一企画『表現創造活動地域支援事業』
C-WAVEが贈る楽しい音楽会～東京カンマーアンサンブル
ファミリーコンサートの取り組みについて(契約料金・スケジュール・舞台仕込み・出演者・統一タイトル・ディズニーキャラクターの使用検討)
- ・2号議案 平成7年度協働企画自主文化事業について
大草原の小さな家ほかの取り組みについて
- ・3号議案 平成6年度各加盟館の自主文化事業の経過について
- ・4号議案 その他
[串間市文化会館]①業務委託について、現在地方自治法施行令第167条の2第1項の規定により随意契約としているが各館の処理について
[加治木町文化会館]①著作権使用・使用料についての算出、計上の仕方
②チケット販売について協力団体をどのようにしているか
③地域住民とともに地域興につながるような事業やイベント実施の有無
④使用料減免処置についてどのような範囲で適用していますか
[門川町総合文化会館]①平成8年度自主文化事業について
[大分合同新聞社]①南日本新聞にも掛けてはどうか
[宮崎日日新聞社]①今秋、宮日音楽コンクールを実施

平成7年6月8日(木)9日(金):第15回定例会 C-WAVE ネットワーク小林会議

会 場 小林市民会館

総会

- ・1号議案 平成6年度事業報告について
- ・2号議案 平成6年度決算報告について
- ・3号議案 平成7年度事業計画(案)について
- ・4号議案 平成7年度会計予算(案)について
- ・5号議案 平成7,8年度役員について

定例会

協議

- ・1号議案 平成7年度統一・協働企画自主文化事業について
統一企画『表現創造活動地域支援事業』
C-WAVEが贈る楽しい音楽会～東京カンマーアンサンブル
ファミリーコンサートの取り組み(宣伝広告)について
- ・2号議案 平成7年度協働企画自主文化事業について
大草原の小さな家(宣伝広告)の取り組みについて
- ・3号議案 その他
[鹿屋市文化会館]①ポスター、チラシ等をC-WAVEで販売する計画はないか
[加治木町文化会館]加音ホールの柿落とイベント及びオープン後の催物について来年検討されている公演等はないか
- ・4号議案 平成7年度全国公立文化施設協議会総会について

平成7年8月24日(木)25日(金):第16回定例会 C-WAVE ネットワーク加治木会議

会 場 加治木町役場

定例会

- ・1号議案 平成8年度各館自主文化事業について
- ・2号議案 C-WAVEが贈る楽しい音楽会～東京カンマーアンサンブルファミリーコンサートの取組み(宣伝広告)について
 - ①テレビスポットキャンペーン期間について(テレビ宮崎)
 - ②ラジオ番組のチケットプレゼントについて
 - ③FM、AMラジオのスポンサーとの協議について
 - ④九州民謡メドレー作曲について(作曲家 江藤誠仁右衛門)
- ・3号議案 その他 ①ヴォイスファクトリー(株) 輪島氏説明

平成7年10月3日(火)4日(水):第17回定例会 C-WAVE ネットワーク安心院会議

会 場 安心院町文化会館

定例会

- ・1号議案 C-WAVEが贈る楽しい音楽会～東京カンマーアンサンブルファミリーコンサートについて
- ・2号議案 平成8年度統一企画自主文化事業について
- ・3号議案 平成8年度各館自主文化事業案について
- ・4号議案 出演交渉について
- ・5号議案 その他プロモーション企画書紹介

平成8年2月21日(水)22日(木):第17回定例会 C-WAVEネットワーク門川会議

会 場 クリエイティブセンター門川

定例会

- ・1号議案 平成8年度統一・協働、単独企画自主文化事業について
- ・2号議案 地域におけるアートマネジメントについて
- ・3号議案 各新聞社(賛助会員)との事業共催のあり方について
- ・4号議案 平成8年度定例会開催予定
6月弥生町 8月中種子町 10月鹿屋市 2月串間市
- ・5号議案 その他

平成8年6月11日(火)、12日(水):平成8年度総会 会場:弥生町民会館

- 1) 平成7年度事業報告について
- 2) 平成7年度決算報告について
- 3) 平成8年度事業計画(案)について
- 4) 平成8年度会計予算(案)について
- 5) 平成7・8年度役員について

平成8年6月11日(火)、12日(水):第1回(18回)定例会弥生会議/弥生町民会館

- 1) 平成8年度統一・協働企画自主文化事業の進捗状況と問題点について
 - ①ジュビリーシンガーズ(安心院、臼杵、弥生、門川、小林、加治木)
 - ②源氏物語(西都、串間、鹿屋、中種子)
 - ③モスクワ少年合唱団(西都、加治木)
 - ④劇団四季(安心院、臼杵、小林、中種子)
 - ⑤ピッカリ座(安心院、西都)
 - ⑥N響アンサンブル(弥生、門川)
- 2) 平成8年度各館事業について
- 3) 平成9年度事業計画について

- ①各館の事業計画
- ②統一・協働企画について
- ③ その他企画提案 ・梅若(流)能について(鹿屋)
 - ・宮日音楽コンクールについて(宮日)
 - ・東京カンマーアンサンブル協会(白木氏)
 - ・熊本日日新聞社(小串氏)

4)その他

- ①平成9年度事業に係る現地研究、調査の為の出張について
- ②アートプロデューサー養成講座の講師派遣依頼について
- ③会館管理運営上の問題点について(串間市提案)

平成8年8月16日(金)17日(土):第2回(19回)定例会中種子会議/種子島こりーな

- 1)平成8年度統一企画事業の進捗状況について
- 2)平成9年度統一・協働企画事業について
 - ①統一企画「助成事業」について
 - ②メセナー支援事業について
 - ③協働企画事業提案について
- 3)平成9年度事業に係る現地研究、調査の為の出演交渉について
- 4)SP業者からの情報提供について
- 5)定例会の会場・日程について

平成9年4月西都市/8月臼杵市/10月加治木町/平成10年2月安心院町

平成8年10月3日(火)、4日(水):第3回(20回)定例会鹿屋会議

- 1)平成8年度協働企画事業の進捗状況について
- 2)平成9年度協働企画事業(案)について
- 3)平成9年度自主企画事業(案)について
- 4)ホール(舞台)関係業務の範囲について(串間市提案)
- 5)SP企画提案紹介

平成9年2月17日(月)、18日(火):第4回(21回)定例会串間会議/串間市民会館

1)育成型事業について

地元素材を活用した住民参加型段組みなどの地域におけるアートマネジメントについて(提起)

- ①伝統芸能保存活動の支援・育成・発掘・主催・共催
- ②音楽活動(器楽・声楽)
- ③演劇活動 //
- ④その他

2)鑑賞型事業について

- ①各ジャンルのファン層拡大について
- ②年齢、性別等を考慮した事業の企画について
- ③ニーズ(needs:顧客の求めるもの)に応えられる事業取り組み
- ④シーズ(seeds:活動の根源となるもの)的な事業取り組み

3)事業の企画と運営(経営)について

演歌三昧の反省(プロモーターの資質、キャスティング、契約内容ほか)

- 4)平成9年度助成事業経過について
- 5)企業メセナの地域文化振興基金について

6) 役員改選について

[臨時会議の開催]

- (1) 宮崎県内会議 平成8年5月14日(月) 宮日会館
 - 1) 宮崎日日新聞社(紙齢2万号記念)との共催事業について
 - ① C-WAVEが贈るアルバートマックニール&ジュビリーシンガーズ
 - ② C-WAVEが贈るスーパーミュージカル源氏物語
 - 2) 共通事項の確認について
- (2) 宮崎県内会議 平成8年7月2日(火) 宮日会館
 - 1) 宮崎日日新聞社(紙齢2万号記念)との共催事業について
 - 2) 社告の時期について
 - 3) 宣伝材料への掲載について
 - 4) その他(電波媒体について)
- (3) 加治木会議 平成9年3月12日(水)、13日(木) 加音ホール
 - 1) 平成9年度自主文化事業について
・吉本興業(広中氏)との打合わせ

[情報収集]

(1) 合同情報収集の実施

- 1) 平成8年11月11日(月)(財)地域創造 芸術環境部訪問 *全館
 - ① 平成8年度表現創造活動支援事業助成申請等事務について
 - ② 平成9年度事業助成について
- 2) // 国際交流基金人物交流部受入課訪問 *全館
- 3) // (財)自治総合センター訪問 *希望館
- 4) // アルス東京訪問 *希望館
- 5) // 劇団ピッカリ座訪問 *希望館
- 6) // アオイスタジオ訪問 *希望館
- 7) // スイセイミュージカル《新宿で面談》*希望館
- 8) 平成8年11月12日(火)東京都庁都民情報センター訪問 *希望館
- 9) // (財)みどり教育財団訪問 *希望館
- 10) // 伊藤音楽事務所訪問 *希望館
- 11) // (財)三井海上文化財団訪問 *安心院
- 12) // イマジン訪問 *希望館
- 13) // シアターアプル訪問 *希望館
- 14) // (財)日本青年協会訪問 *弥生
- 15) 平成8年11月12日(火)東京オペラシティタワー・公文協訪問 *希望館
- 16) 平成8年11月13日(水)カザルスホール訪問 *
- 17) // テレビマンユニオン音楽事業部訪問 *
- 18) // (財)三井海上文化財団 *全館

[統一・協働企画事業の実施]

(1) 協働企画事業「ピッカリ座人形劇・アリババと40人の盗賊」

平成8年8月18日:安心院町文化会館/平成8年8月23日:西都市民会館

- (2) 協働企画事業「スーパーミュージカル源氏物語」
 平成8年11月17日 西都市民会館 *宮崎日日新聞社紙齢2万号記念事業
 平成8年11月19日 串間市民会館 *宮崎日日新聞社紙齢2万号記念事業
 平成8年11月22日 鹿屋市文化会館
 平成8年11月23日 種子島こり～な
- (3) 協働企画事業「アルパートマックニール&ジュビリーシンガース」
 平成8年11月27日 加治木町文化会館(加音ホール)
 平成8年11月29日 小林市文化会館 *宮崎日日新聞社紙齢2万号記念事業
 平成8年11月30日 門川町総合文化会館 *宮崎日日新聞社紙齢2万号記念事業
 平成8年12月3日 安心院町文化会館
 平成8年12月4日 臼杵市民会館
 平成8年12月5日 弥生町民会館
- (4) 協働企画事業「モスクワアカデミー少年合唱団」
 平成8年12月16日 加治木町文化会館(加音ホール)
 平成8年12月17日 西都市民会館
- (5) 協働企画事業「劇団四季・嵐の中の子供たち」
 平成9年2月4日 安心院町文化会館
 平成9年2月15日 臼杵市民会館
 平成9年2月17日 小林市文化会館
 平成9年2月25日 種子島こり～な
- (6) 協働企画事業「N響アンサンブルと日本のトップアーティストたち～音楽世界一周の旅」
 平成9年2月21日 弥生町民会館 *三井海上文化財団(地域住民のためのコンサート)助成
 平成9年2月22日 門川町総合文化会館 *三井海上文化財団企画協力

[ネットワーク拡充活動]

C-WAVE事業推進について説明

- 1) 宮城県文化振興財団アートプロデューサー養成講座出席(平成8年6月27日)
- 2) 芸団協、芸能文化情報センター、秋のセミナー出席(平成8年10月31日)
- 3) 横浜市文化振興事業団設立5周年記念アートシンポジウム出席(平成8年11月21日・22日)

[その他]

- (1) 公立文化施設協議会への参加
 - 1) 全国公立文化施設協議会
 - 2) 九州公立文化施設協議会
 - 3) 大分県公立文化施設協議会
 - 4) 宮崎県公立文化施設協議会
 - 5) 鹿児島県公立文化施設協議会
- (2) (財)地域創造が行う「ステージラボ研修」への参加